

モーリタニア月例報告
(2024年6月)

2024年7月
在モーリタニア日本国大使館

【大統領選挙】

5月27日	次期大統領選挙：野党候補者5名の声明
6月1日	野党候補者5名の代理人がCENIに送付した書簡
6月1日	(野党候補者書簡に対する)CENI回答
6月4日	CENIの回答に対する野党候補者ら代理人の再度の意見表明
6月14日	選挙キャンペーンの開始
6月14日から18日	選挙キャンペーン(その2)
6月17日	アルジャジーラの選挙分析
6月18日から20日	選挙キャンペーン等(その3)
6月21日から25日	選挙キャンペーン等(その4)
6月25日	「暴動」事案
6月25日から27日	選挙キャンペーン等(その5)
6月26日	ロッソでの選挙集会における若者の逮捕
6月26日	選挙名簿の監査報告
6月27日から28日	選挙キャンペーン等(その6)
6月30日	票集計の途中経過発表を受けた抗議活動
6月30日	第一回投票暫定結果発表
6月30日	抗議デモを受けた内務省声明

【外政】

6月3日から6日	ガズワニ大統領の韓国・アフリカサミットへの参加
6月11日	モーリタニア・パレスチナ関係(パレスチナ大統領特使兼パレスチナ大統領府報道官の当地来訪)
6月10日から11日	BRICS外相会合：モーリタニア商業相の参加
6月14日	G7サミット参加及びバイ会談

【軍事】

6月10日から12日	モーリタニア軍及び国家憲兵隊による演習の実施
6月14日	モーリタニア軍による中国企業の防空システム取得

【文化】

6月10日及び24日 2025年度日本政府国費外国人留学生、筆記・面接試験実施

【大統領選挙】

●（ガズワニ候補（現職）、ワフィー候補（現役財務相官僚、2019年大統領選挙では得票率1%未満）を除く）野党候補者5名の声明

（5月27日付）

連日、政権がただ一つの方法に固執し、自分たちに有利になるように選挙を操作し、選挙開始前からその信頼性が失われている兆候と証拠が明らかとなってきている。

昨年の国民議会・州議会・市町村議会選挙での経験と、その後独立選挙委員会（CENI）が認めたスキャンダルの後、政権と政府の対応は、あまりにも横暴であり、あらゆる法律、道徳、パートナーシップ及び前回の選挙準備期間の合意を無視したものである。

選挙キャンペーンの人事は、数十の機関の代表を選挙キャンペーンに動員するものであり、有権者に影響を与えるものである。これは法律に抵触し、公共の利益への侵害であり、公共施設の通常運営に影響を与えるものである。

まず全国選挙監視委員会の代表及びメンバーの任命が行われ、次にその事務局長が任命されたが、これにより政府の誠意と監督機関の信頼性に最後の疑いが生じた。こうした行為は、モーリタニア国民の期待を認めて寄り添い、変革への権利を実現し、可能な限り早期に決定を取り戻すという国民の決意に対する政府の配慮が欠如していることを示している。

我々は、これらの不幸な憂慮すべき事態を注視するに当たり、我々の立場を統一し、不正に対抗するために共同で取り組み、国民の意思及び声を守るという強い決意を固める合意を確認するため、以下を宣言する。

（1）有権者の意思に影響を与える可能性のあるもの、選挙の信頼性に影響を与える可能性のあるもの、変化を求める国民の意思に違法・不法に妨げるものを非難し、強く糾弾する。この意思は何によっても止められるものではなく、これを強固に妨げる者は、その行動のすべての結果に対して責任を負わなければならない。

（2）我々は、現政権に近い候補者の利益のために公益事業及びその責任者が搾取されることを強く非難する。

（3）我々は、選挙監視委員会の代表及びメンバーのビラール首相による選定方法を強く非難する。この中には汚職事件で強く非難されている与党の人物が選定されており、我々はその結果を認めないことを確認する。

(4) 我々は、3つの合同委員会の結成を通じ努力を結集することを決定し、これを国民に提示する。

ア 統一した見解を示すための政治委員会。様々な問題を管理するための実際的な計画を提案し、政治的な場での展開について統一した立場をとり、不正行為に立ち向かい、不正行為者と断固として対決する。

イ 法律違反を監視し、必要な措置を講じ、不服申立てのフォローアップを任務とする法律委員会。

ウ 選挙管理担当で構成される合同選挙運営室として機能する技術委員会。有権者の意思に対する不正や攻撃を防ぐために、すべての投票所は代表者、支援委員会及び選挙結果のフォローアップによって、有権者の意思が保証されるように活動する。

ヌ アクショット 2024年5月27日

署名者

オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

ビラム・ダー・アベイド

ハマディ・シディ・ムフタール

イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

ママドゥ・ブカル・バー

●野党候補者5名の代理人がCENIに送付した書簡

(6月1日付)

6月1日、次期大統領選挙の野党候補者5名の代理人が、独立選挙委員会(CENI)に対して以下の12の緊急の要求を記した書簡を提出した。

(1) 選挙人名簿の包摂的な監査を実施し、代理登録、故人の登録、特定の場所や通常の登録時間外の登録などの欠陥や不正行為がないことを確認し、選挙人リストの信頼性を確保すること。

(2) 昨年の選挙では登録日順に選挙人の投票所が割り当てられたが、選挙人氏名のアルファベット順に割り振ること。

(3) 投票所を学校や保健ポストなどの公共の建物内に設置すること。

(4) 特別な支援が必要な有権者に対して、居住地の近くに投票所を設置すること。

(5) 投票所は候補者の代理人の合意のもと、地方(Jiha)又は地区ごとの調整メカニズムに則って設置すること。

(6) 同じ有権者による投票の重複を防止するため、すべての投票所に指紋読取装置を設置すること。

(7) 候補者の代理人及び選挙活動調整者が、その任務を容易に実行するため、州(Wilaya)及び地区ごとの実行委員会本部や投票所にアクセスできるためのカードを配布すること。

(8) 票の分類作業が終了したら、投票所長は投票結果をすべての候補者にワッツアップで送付すること。

(9) 候補者を代表する監督委員会を結成し、CENIが発表する前に、My CENIに代わる新しい情報ツールを使って各候補者の投票結果を共同で承認すること。

(10) 投票所での票の分類作業後、各候補者の代表者の前で投票箱に投票用紙を戻し、記録番号が記載された箱に新たなシールの貼付を確認し、治安当局の保護のもと憲法評議会に移送され、必要に応じて参照できるようにすること。

(11) 投票中、投票所内では有権者によるあらゆる種類の携帯電話やカメラの所持を禁止すること。

(12) 投票のため生体認証アプリを活用し、投票所の職員が画面上で写真、名前及び国民番号を確認できるようにすること。

●(野党候補者書簡に対する)CENI回答

(6月1日付)

野党候補者5名の代理人から12の要望を含む書簡を受け取ったCENIは、選挙プロセスの組織と実施に関する法律規定及び規則に反しない限り、書簡に記載されたすべての要望に応える用意があるとし、以下のとおり回答した。

(1) 選挙人名簿の全面的な監査の要請に関して、CENIはこれまで暫定リストを即時に透明性をもって公開し、最終名簿確定前に審査及び苦情の申立てを行えるようにしている。人口登録・安全文書庁と連携し、最終的なリストが完成次第、各候補者に共有する。

(2) 投票所を選挙人氏名のアルファベット順に割り振るのではなくIDカードの昇順とした。

(3) 可能な限り、CENIは投票所が公共の建物内に設置されるようにした。GPSによる当該建物の地理的座標が保証のため使用される。CENIは、地域委員会及び地方委員会に対し、CENIの費用負担で中立的な場所を借りることを義務づける。

(4) 特別な支援が必要な有権者への配慮に関し、CENIは、それらの人々に対して特別な配慮を払っており、あらゆる要求に迅速に対応している。実際、腎不全患者の活動団体の要望を受け、透析設備を有する施設の近くの盲学

校に事務所を開設してほしいという要請を受け入れた。

(5) CEN Iはこれまでに、投票所設置のための手段と、それに関するすべてのパートナーとの調整の仕組みについて説明を行った。我々は、国内外のCEN Iのミッションが、貴方の勧告を実施し、2023年のトリプル選挙中に記録された欠点と不均衡を克服するのに十分な結果を出して対応できると強く信じている。

(6) 高品質(99%)の指紋読取装置の購入には、4,500の投票所をカバーするために500億ウギアを超える資金が必要である。高い財政コストに加え、指紋の読み取りにかかる時間の長さは、有権者の列の動きや投票の円滑さに悪影響を及ぼす。

(7) CEN Iは、候補者の代理人が地域委員会や地方委員会にアクセスしやすくするための措置を講じる。

(8) CEN Iの情報システムにより、透明性と明瞭性の観点から、結果は即時に公表される。記録のコピーを候補者の代理人に送付することは、投票所にいる候補者の代理人の責任である。

(9) 選挙結果は一元管理され、明確かつ厳格な法的規定に基づき認証される。My CEN Iプラットフォームを用いた即時公表に関して、デジタル・ソフトウェアにより即時に、明確に、自動的に実行される。

(10) CEN Iは法の適用を明示的に要求している。

(11) 有権者による電話及び写真機器の所持に関して、CEN Iは、有権者の意思に影響を及ぼす可能性のあるいかなるものも阻止する意志を改めて表明する。

(12) CEN Iは、国土が広大で、多くのサービスやアプリへのアクセスが不平等であることを考慮しつつ、投票の透明性を保証するために、利用可能なあらゆるアプリや技術的手段を引き続き活用していくことを再確認する。

●CEN Iの回答に対する野党候補者ら代理人の再度の意見表明

(6月4日付)

下記署名の候補者代理人による緊急の要求に対する独立選挙委員会(CEN I)の返答に対し我々の意見を表明する。残念ながら、その内容は自由で透明かつ公正な選挙を求めるモーリタニア国民の期待と希望を大いに裏切るものであり、これまで常に表明されてきた協力と正当な要求に対する対応の姿勢と全く一致しないものである。それ以上に、以前の会合で我々に明示的に約束したことに反している。

我々の返答を以下にまとめる。

1. 我々は大統領候補7名のうち5名の代理人として、12の緊急かつ重要な要求を提出したが、残念ながらそれはすべての要求やすべての確認されている多くの欠陥や不備を反映したものではない。12の要求のうち、2つの要求についてのみ、曖昧な形での約束がなされたが、その2つの要求に関しても、我々はまだ目標が達成されているかどうかを確認し、評価している最中である。その2つの要求とは投票センター内の投票所の配置基準と、投票所の場所に関する問題である。

また、我々がアルファベット順に並べる基準に関して、CENI側の回答は我々の要求を正しく理解していない。むしろ、この基準は我々の重要な要求の一つであり具体的な異議は、以前の選挙人リストにおける割振基準にあり、昨年の選挙での割振りは登録日時に基づいており、地元の関係者が選挙人をグループで同じタイミングで登録することを可能にしていた点である。

この要求に対する回答では、IDカードの昇順に並べる新しい基準を採用したとあるが、これが我々の目標を達成し、他の負の影響がないことを確認するために評価を行う予定である。

投票所の場所に関しては、投票所を公共の建物（学校、保健センター、その他の適切な公共施設）に限定することを厳格に求めた。この要求は不可能ではなく、評価を行った投票所において収容人数を上回った主な理由は、主に他の地域から有権者を移動させた結果であった。我々は、有権者が隣接する居住区の公共施設において投票が可能となることを求めている。また民家の賃借を（投票所として）計画していることについて懸念を表明する。これは以前、特定の候補者の支持者や活動家の家に投票所を設置していた事実を正当化もしくは隠蔽する手段と考えられるからである。

したがって、CENIがこれらの家を賃借するために費用をかけるよりも、近くの居住区にある公共施設を使用する方が賢明と言える。

2. CENIの回答は、多くの点で一般的かつ具体性に欠けていた。例えば、合意に基づいた投票所の設置や、候補者の代表が委員会や投票所にアクセスしやすくする点、有権者の身元確認の保証などである。

3. CENIの回答には、我々の要求の妥当性や現実性に疑問を呈する点が含まれていた。例えば、指紋認証装置の提供（以前に2億ウギアとされていた費用が50億ウギアに増加している）や、投票所での撮影機器の使用禁止、特別な支援が必要な人々のための投票所の設置に関する点である。

4. CENIの回答は一部の要求に対して明確に答えず、既知の事柄にのみ言

及しており、我々の要求と無関係な内容であった。例えば、選挙人リストの精査に関する要求では、リストの公開や異議申立ての受付けについてのみ触れていたが、我々の要求は、選挙人リストの欠陥や不正がないことを確認するための精査である。具体的には、代理登録、死亡者の登録、指定された時間外や場所での登録に関する点を挙げた。これらについて引き続き回答を待ちたい。

投票結果の即時公開に関する要求についても同様に、結果の即時公開についてのみ触れられていた。この点に関しては、前回の選挙で記録された重大な誤りを繰り返さぬよう、正確な情報の公開を求める。この選挙の重要性から、こうした誤りは許されるものではない。

懸念されるのは、CEN I の回答が以前の会合で我々に約束した事項を無視している点である。例えば、技術チームの受入れ準備、投票所のメンバー選出方法への候補者代表の参加、選挙結果の即時公開の約束などである。

5. 我が国は現在、重要な段階と決定的な転機を迎えており、地域的及び国際的に複雑な状況の中で、全員が誠実かつ断固とした責任を果たし、この任務を成功させるための条件と保証を確保するために努力を倍増する必要がある。

我々の共通目標である自由で透明、公正で信頼性のある選挙を実現するためには、協力と共同行動が最善かつ確実な方法であると信じている。

ヌアクショット 2024年6月4日

署名者

タスリム・ヤサール／イード・ムハンマドゥン・ムバーラク候補代理人

アブデルラフマン・ハムーディ／オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ候補代理人

アブダッラー・アブ・ジョウブ／ビラム・ダー・アベイド候補代理人

シェイフ・アダマ・グインド／ママドゥ・ブカル・バー候補代理人

モハメド・レミン・チャイエブ／ハマディ・シディ・ムフタール候補代理人

●選挙キャンペーンの開始

(6月14日付、当地政府系メディアAMI)

1. モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ (現職)

(1) ヌアクショットで選挙キャンペーンを開始。食料安全保障として自給自足を達成するためにいくつかのプロジェクトを開始し、農業革命を起こすと述べた。また、畜産資源の開発による食肉の輸出と酪農製品の自給自足を約束。

(2) 選挙キャンペーン開始にあたり、青少年問題を管理する青少年促進代表

団を創設し、青少年の雇用や職業訓練の改革、高等教育の発展、漁業や農業への統合プログラムを立ち上げると述べた。また、年金制度改革や労働者の給与改善、汚職との闘いを誓い、特に教育、治安、保健の分野での給与改善を約束した。

(3) 低所得者層を優遇する社会政策や平等な教育機会の提供、政治的な宥和策や民主主義強化のための自由の維持についても言及した。

(4) 自身の選挙公約が現実的で達成可能であり、正義と平等に基づいた国家を建設し、国民にまともな生活を提供することを目指すとして述べ、有権者に対し一票を投じるよう呼びかけ、競争相手を尊重しクリーンな選挙戦を展開するよう支持者に求めた。

2. モハメド・アミン・ムルタジー・ワフィー

(1) 故郷であるネマで選挙キャンペーンを開始。これは同候補にとって2019年以来2回目の大統領選挙への挑戦である。当選した場合、国の運営を誠実かつ真摯に行うことを誓い、他の候補者にも同じように行動するよう呼びかけた。

(2) 若者の政治参加を呼び掛け、政治の実践を正しい道に戻して社会を救い、孤児や困窮者、そして一般的に脆弱な人々を支援したい旨述べ、特定の個人の私的なニーズに応えるのではなく、社会全体のために尽力することを強調した。

(3) また一部のエリートが国の資源を独占し、大多数の国民を無視していると批判し、現実を知る代表者に投票するよう呼びかけた。さらに、若くて国民のニーズを理解する大統領を選んだセネガルの例を挙げ、支持者を啓発した。

3. ハマディ・シディ・ムフタール・モハメド・アブディ

(1) 又アクショツで選挙キャンペーンを開始。

(2) 同候補は、開幕演説において、イスラム教の価値に重きを置き、学者やイマーム、法学者、宗教指導者及びマドラサ（イスラム学校）やモスクに敬意を払い、美しい国を再び取り戻すと約束した。

(3) タワースル党の計画は全てのモーリタニア国民を対象とし、誰も排除せずにその痕跡を取り除くものであることを強調し、司法において公正と信頼を取り戻すと述べた。

(4) 女性に対して特別な地位を再び与えるものであり、預言者ムハンマドの時代のように、女性を保護する法律を制定することを約束。若者の役割と重要性を強調し、適切な雇用機会を創出することで、若者に特別な配慮を示すと述べた。また、社会的弱者層も重点的に支援し、自身の計画には腐敗や腐敗者の

居場所はないと強調した。

(5) 教育が多くの課題に直面していることを指摘し、本格的で丁寧な改革を進めるために、その軌道修正が必要であると述べ、教師の給与を数倍に引き上げ、閣僚の給与に匹敵する水準にすることを約束し、医療システムにも特別な配慮を示すと述べた。

(6) 国軍の重要性とその役割について、軍及び治安部隊の状況を改善が必要であると述べ、給与の引き上げと完全な領土保護のために必要な装備の提供を行うことを約束した。

4. オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

(1) ヌアクショット北部の旧空港で選挙集会を開催し、14日夜にヌアディブで予定されている公式開幕に備えた。

(2) 集会の演説者たちは、ソマレ候補が国を救い、モーリタニア先進国に引き上げる能力があることを強調した。

(3) 候補者が持つ科学的能力と資格が、現在のモーリタニアに必要であると述べ、彼が第一回投票で勝利するために投票するよう呼びかけた。そして、強く繁栄するモーリタニアのために尽力することを訴えた。

5. ママドゥ・ブカル・バー

(1) 14日、午前0時にヌアクショット西部のテブラグ・ゼイナ地区シテ・プラージュ広場の野党「正義と民主主義のための連合（ADJ/MR）」党本部にて選挙キャンペーンを開始。

(2) 候補者は群衆に向かって、これまでの連続した政権に終止符を打ち、進歩、幸福、繁栄をもたらし、社会的な結束と正義を確立し、差別や排除なしに国民間での国家の統一を確立する体制に置き換える時が来たと語り、法の支配を確立するために尽力すると約束した。

(3) その後、同候補は、国家言語の推進と公式化、土地所有権の確保、権力と富の分配、民主主義の確立、社会的結束の強化を含む、選挙公約の10の優先事項を語った。

6. イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

(1) 14日、午前0時にヌアクショットの旧空港広場で選挙キャンペーンを開始。

(2) 選挙公約には、保健や国内各地の農民の保護、すべての市民への水の供給など、さまざまな分野での重要な改革が含まれていると説明した。

(3) また、公約には産業と鉱業の企業設立が含まれており、各地域の探鉱者

の保護と安全確保に努める。

(4) 漁業と海洋経済の分野も重要であり、この分野の産業化を改革すると述べた。退職者の問題も特に重要であり、退職者の生活条件を改善すると述べ、当選した場合には全国各地で食料品を低価格で提供することを約束した。

(5) 支持者たちが、多様で寛容なモーリタニアの姿を表しており、すべてのモーリタニア国民が平等な権利を持ち、自由と変革を求めていると述べた。同候補は、腐敗の蔓延と適切なガバナンスの欠如が原因で多くの必要なサービスが不足している現在の国の状況を批判した。

7. ビラム・ダー・アベイド

(1) 郊外の首都、新興都市の首都、革命の首都であるカエディから選挙キャンペーンを開始することを決定した旨説明した。

(2) 自分（ビラム候補）はテブラグ・ゼイナ地区で暮らすつもりはなく、リヤド地区で暮らしており、モーリタニアが抱える問題をよく理解している旨述べた。

(3) また、現政権とその前任者を批判し、投票プロセスや関連事項を詳しく検討し、支持者に注意深くなるよう呼びかけた。

(4) 第一回投票で大統領となることを確信している旨繰り返し述べた。

●選挙キャンペーン（その2）

（6月14日から18日付、当地政府系メディアAMI）

1. モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ（現職）

(1) 14日、ヌアクショット北部ダール・ナウムで開催された若者に向けた選挙集会において、次期政権では若者の統合、教育、促進に焦点を当て若者に関するすべての問題を担当する機関を設立する予定であると述べた。若者が持つエネルギーを国の発展に活用し、若者の失業問題に取り組み、政治的意思決定に参画させると述べた。また、スタジアムや劇場などの多くのレジャー施設を建設し、国際的なスポーツイベントの開催も計画している旨述べ、若者に対し、怠惰や依存を拒否し、法律を尊重し、腐敗を避け、人種差別、宗派主義、部族主義といった考えを改めるよう呼びかけた。

(2) 15日、ホード・エッシャルギ州のネマ市を訪れ、集会の参加者に対し、過去5年間の政府の業績は多くの制約があったにもかかわらず良好であったと述べ、経済政策により、国家経済の強靱性が高まり、公的均衡の維持を可能にし、地域内及び世界の一部の国々と比較してもモーリタニア経済が優れたものであると述べた。またホード・エッシャルギ州の状況をよく理解し住民が直面している経済問題を把握している旨述べ、当地域に対して開発パートナー

から約700億ウギアの支援が約束されたこと、政府としても今年度中に100億ウギアが拠出される旨述べた。さらにモーリタニア国軍は地域全体のリスクマップを熟知しており、領土一体性を守る戦略及び任務を完全に遂行するための装備を備えていると述べた。

(3) 16日、ホード・エル・ガルビ州のアイウン市を訪れ、過去5年間の功績について述べ、特にアイウン市に病院を建設したこと、77,000人の住民が健康保険を享受していること、12,000世帯が継続的に現金給付を受け取っていることを挙げた。当選した場合には、これらの実績を拡大・強化し、アイウン市の課題を解決するために、医療、教育インフラ、社会的介入を受ける家族への支援、地域間の電力相互接続プロジェクトの実施の加速において投資を倍増するよう努力することを強調した。

(4) 17日、アッサバ州のキッフアで選挙集会を開催し、自身の選挙公約の概要を説明した。過去5年間の任期中にアッサバ州で達成された成果のいくつかを挙げ、現在12,000世帯が健康保険を享受し、13,000世帯が継続的な現金給付を受け、12,000人の子供たちが学校給食を受けており、多くの学校や中等教育機関の建設、ダム建設、100の村への飲料水供給、州都内とその周辺地域を結ぶ道路網の整備を行ったことを紹介した。当選した場合には、アッサバ州に割り当てられる投資を倍増し、それを特に医療、教育インフラに向け、社会的支援を受ける家族の数を倍増し、キッフア市に職業訓練センターを建設することを約束した。

(5) 18日、ギディマカ州のセリバビで開催された選挙集会において、過去5年間に同国で達成された成果及び選挙公約の概要を説明し、モーリタニアを強く公正で繁栄し、法の支配及び市民意識に基き、市民に奉仕する行政及び司法を持つ国家とするために努力すると述べ、また汚職と真剣に闘い、教育と若者の雇用が2期目の優先事項のひとつであると述べた。また外交の成果として、モーリタニアは不安定なサヘル地域における安定のモデルとみなされており、他国の状況を改善するため国際問題の解決に貢献することが期待されており、国際舞台で特権的な地位を占めていると強調した。過去5年間のギディマカ州における投資総額が402億8000万ウギアに達したことを指摘し、その間にセリバビ市で大規模病院が開院予定、Gouraye 及び Ghabouの2つの大きなダムが建設されたと述べた。

2. モハメド・アミン・ムルタジー・ワフィー

(1) 15日、ホード・エル・ガルビ州のアイウン市を訪れ、集会の参加者に対して、モーリタニア国民がこれまで度重なる政権交代にもかかわらず依然として困難な状況にあることを述べ、国民は劣悪な健康状態、低質な教育、そし

て不十分な水や電力サービスに苦しんでいることを指摘した。また、モーリタニアには多くの資源があるがそれが国民に向けられていないため、若者はより良い生活を求めて移住していると説明し、議員は自分たちの利益のために政治を利用していると今日の議会の状況を批判した。

(2) 16日、ホード・エル・ガルビ州のChmar村及びTintane家畜市場を訪れ、食料安全保障に関する住民の意見を聞き、畜産業従事者と彼らが抱える問題について意見交換を行った。また同日、アッサバ州のキツファにおいて選挙集会を行い、スピーチの中で、モーリタニアはその誕生以来、富を奪いその発展を妨げている少数の人々の支配下にあり、歴代政権は首都にのみ集中し内陸部には目が向けられておらず、首都は環境汚染とあらゆるレベルでのサービスが欠如しているという嘆かわしい状態にあると述べた。女性及び若者の社会参画を訴え、また同国が抱える最大の問題の一つである汚職を経済学者や金融の専門家だけが解決することができ、これらの資質（金融や経済の専門家）を持つ候補者は自分（ワフィ候補）しかいないと断言した。アッサバ州は畜産業が豊かであるため、畜産分野開発の受け皿となるべきと述べた。

(3) 17日、タガント州ティジクジャ市の独立広場において、自身への投票を呼びかけた。同候補は、社会のすべての階層に対しその状況を変えるために努力を結集し、自身が若者の側に立ち懸念と願望を共有する旨訴えた。

3. ハマディ・シディ・ムフタール・モハメド・アブディ

(1) 14日、ヌアディブにおいて選挙集会を行い、スピーチの中でモーリタニア国民、特に女性の困難な状況を変えるために努力すると強調し、モーリタニアの女性にはもっと多くの価値があり、男性と同じようにあらゆる分野に関わるべきだと述べ、国民が尊厳ある生活を享受し、若者たちがふさわしい居場所を持てるような、安全で安定した国とするため、すべての若者に支持を呼びかけた。また、経済首都ヌアディブでさえ、経済的潜在力にもかかわらず、いまだに頻繁な停電、水不足、その他の必要不可欠なサービスが欠如している状況を批判した。

(2) 15日、インシリ州のアクジュージトで開催された選挙集会において、自身の公約は社会的弱者に注意を払い、格差是正に重きを置いている旨述べ、女性の政治参画、若者の雇用機会創出を誓った。当選した場合、インシリ州の鉱物に関するすべての協定を見直すと述べ、またアクジュージトの生活インフラが不十分であるため状況改善に取り組む旨述べた。

(3) 18日、トラルザ州のロッソで開催された選挙集会で、現政権の失敗がこの町が直面している状況を招いており、自身の選挙公約はこの失敗を根絶し市民間の正義及び平等を達成すると述べた。また同地域の農業分野を重視する

旨述べ、農産物の質を向上させる巨大な開発プロジェクトを立ち上げ、人々の生活水準を向上させる目的で長期融資が受けられるように努力すると述べた。さらに畜産農家を支援し、この分野での開発プロジェクトを立ち上げることで、同分野の発展に取り組むとともに、海外から肉や牛乳を輸入することは容認できないとしてミルク工場を設立すると述べた。

4. オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

(1) 14日、ヌアディブで開催された選挙集会において、国内の生活状況を批判し、またサービス業のパフォーマンスが振るわない状況を批判した。同候補は自身が当選した際には、水、電気、保健、教育といった生活に必要なあらゆるものを提供する旨約束した。また参加した支持者に対して、モーリタニアには変革が必要であり、この国を腐敗から救うために一致団結する必要があると述べ、投票を呼びかけた。

(2) 15日、インシリ州のアクジュージトを訪れ、住民と意見交換を行い、6月29日の投票を呼びかけた。同候補は、25年間医師として、教育、医療、サービスなど、この国のあらゆる問題を観察し、効果的な解決策を理解している旨述べた。モーリタニアが独立後60年経過しているにも関わらず、依然として主要都市における水、電気を始めとした多くの基本的なサービスが欠如している状況を非難し、この国には多くの資源と潜在力があり、この地域で最も豊かな国の一つになる可能性があるとして述べた。当選した場合には、水、電気、保健、教育といった生活に必要なもの、さらに十分な雇用機会を提供することを約束した。

(3) 16日、ティリス・ゼムール州のズエラート市で行われた選挙集会において、MIFREMA（モーリタニア産業・鉄鋼会社（SNIM）の前身）の国有化から今日に至るまで、SNIMの国内及びティリス・ゼムール州における業績は常に要求水準を下回っていると指摘し、SNIMが推進している経済・社会政策を批判した。かつては10大鉄鉱石生産者の一つであったのに対し、現在は100位であることを指摘し、現経営陣に対し、同社の発展に寄与しない分野に投資を向けるのではなく、鉱石の開発と生産量の増加に集中するよう求めた。また有権者らと、頻繁な断水や停電、保健、教育、雇用創出など住民が直面している最も重要な問題について意見交換を行った。

(4) 18日、アドラール州のアタルで行われた選挙集会の中で、農業、漁業、観光の分野でモーリタニアが大きな可能性を持っているにもかかわらず、国の発展を妨げている失業及び若者の移住の問題について、自身の選挙公約及びビジョンを提示するためにここに来たと述べた。同候補は、失業を減少させ、雇用の機会を創出する大規模プロジェクトによりすべての問題を解決でき

ると述べ、国際的な鉄道網の構築、モーリタニア・マリ国境の陸上港の建設、そしてセリバビからンディアゴまで広がる広大な農地での投資などを挙げ、これらにより若者に何千もの雇用機会を提供できると述べた。

5. ママドゥ・ブカル・バー

(1) 14日、ヌアディブ市で行われた選挙集会の中で、自分（バー候補）が市民生活に影響を与えるすべての問題を真剣に考慮し適切な解決策を提供する公約を掲げていると述べ、当選した場合には、モーリタニアに大きな変革をもたらし、市民がその肌の色や社会的背景の如何にかかわらず、権利、安全、心の平穏を享受できるような強固で民主的な国家を建設することを誓約した。また、現政権は過去の政権同様に国を導く政策に失敗していると指摘し、モーリタニア人が数十年に亘り苦しんできた様々な形の不正義に言及し、自身の4年間の獄中生活を例に挙げた。

(2) 16日、ゴルゴル州Maghama地区において選挙集会を行い、現在の国が抱える問題に言及しつつ同候補のアクション・プランを示し、自身が提案する変革への支持を呼びかけた。当選した場合には、汚職との闘い、行政サービスの改善、農業の振興、若者の育成に取り組むと約束した。

(3) 18日、ギディマカ州のセリバビで開催された選挙集会において、モーリタニアにはあらゆる分野で潜在的な可能性があるが、その方向が間違っている旨指摘し、国を前進させることができ、市民の期待や関心に本当に応える公約を掲げる人物を選出する必要があると述べた。モーリタニア国民が自国の富から恩恵を受けることができるようにするために、差別との闘いや富の共有、国語の公用化、あらゆる形態の悪政との闘いを通じて社会的結束を強化することが不可欠であると述べ、自身の公約のロードマップについて概説した。当選した場合には、公務員の給与及び退職年金を増額することを約束し、有権者に投票を呼びかけた。

6. イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

(1) 14日、ヌアクショットの選挙キャンペーン本部において、政治・提言シンポジウムを開催し、講演者らは同候補の公約は若者に焦点を当てており、若者の状況を改善し、意思決定への関与を高めることを目指している旨述べ同候補への投票を呼びかけた。

(2) 16日、ヌアクショットの選挙キャンペーン本部において記者会見が行われ、アイウン市における同候補の選挙キャンペーンに参加した活動家数名が逮捕された事態を「抑圧的な行為」として非難した。選挙プロセスは民主主義の本質であり国民が大統領を選ぶことを可能にするものだとして強調した。

7. ビラム・ダー・アベイド

(1) 14日、ギディマカ州のWompouにおいて、選挙集会を開催し、支持者に対して公約の概要を説明し、前政権が「国民の富を略奪した」と批判し、現政権と前政権が国民のために何をしてきたのかに疑問を呈し、今回の選挙はこの状況を変えるチャンスだと述べた。2019年の大統領選挙で現大統領が勝利した理由のひとつが、野党の投票所監視率の低さだと指摘し、支持者に投票を促し、「不正」から票を守り、投票所の内外を監視し、金銭のために良心を売らないよう求めた。

(2) 15日、ギディマカ州のセリバビ市を訪れ、集会の参加者に対して、モーリタニアの正義と平等を実現するために、2024年の選挙で共和国大統領に立候補したと宣言し、すべての腐敗した抑圧的な人々に反対し、国民、若者、女性、そして抑圧された人々を守ることを躊躇しないと強調し、共和国大統領に当選したら、「国民の金を盗む者たち」を逮捕し、国民をその支配から解放すると約束した。

(3) 17日、アッサバ州のKankossaで行われた選挙集会で、自身の公約の概要を説明し、持続可能な開発、正義、そしてモーリタニア人がどこにしようと社会的・経済的な生活の向上を達成することを目指していると説明した。また犠牲祭の機会にギディマカ州Ould Yengeを訪れたことは、自分（アベイド候補）の同地域への関心を示しており、また国民に対する不正への拒否と抵抗を表していると述べた。さらにアッサバ州に飲料水を提供するとともに、国費で医療や教育を提供するよう努める意向を示し、モーリタニア人の様々な構成要素間の公平性を達成することを強調した。

(4) 18日、アッサバ州のキッフアで行われた選挙集会で、現政権は公約を実行できていない旨指摘し、自身の公約が国民の社会的・経済的生活に良い影響を与えると概要を説明した。同日に行われた記者会見の中で、自らが法の下にあり、合法性、社会平和、法を支持している旨明言した。同会見の中で、選挙キャンペーン中の軍及び治安当局の利用を批判し、それは恐怖と脅迫のメッセージと見なされると述べ、変化を望むからといって、国民に対して武力を使用することは容認できず、我々はそれを拒否すると付け加えた。

●アルジャジーラの選挙分析

(6月17日付、アラブ系メディア「アルジャジーラ」)

1. 概要

(1) ガズワニ現大統領は、野党の統一候補が不在の中で最有力な候補者と見られる。 17日現在、モーリタニアの大統領候補者たちは選挙キャンペーンを

続けており、29日に予定されている投票日に向け、190万人以上の有権者に投票を呼び掛け、闘っている。

(2) モーリタニアの歴史において8回目となる今次大統領選挙には、7人の候補者が出馬している。その中で主要な候補者は、退任するガズワニ現大統領、イスラム主義政党からの候補であるムフタール野党指導者、そして人権活動家のアベイド候補や弁護士のアバーラク候補である。

(3) 今次大統領選挙は、サヘル地域の厳しい安全保障状況などの国際的及び地域的な課題がある中で行われる。また、国内の課題としては、汚職の蔓延、物価の高騰、経済の縮小及び若者の移民が挙げられる。

(4) 与党連合は、昨年行われた国民議会・州議会・市町村議会選挙での圧勝しており、各政治グループ間の調和の上、この大統領選挙に臨んでいる。それに対し、野党内では分裂が生じており、統一候補の不在がそれを表している。

(5) 候補者たちの背景や政策の多様性と違いが選挙全体に影を落としており、第一回投票での結果確定が難しい状況を示唆している。

2. 各候補者の公約

(1) 各都市を巡る中で、候補者たちは選挙公約の概要を述べた。与党連合の候補であるガズワニ大統領は、「安全な選択、明るい未来」のスローガンの下、任期中の成果を強調し、「成果の継続、汚職撲滅、若者の問題解決と雇用創出のための特別委員会の設立」を約束した。

(2) 一方、野党指導者のムフタール候補は、物価の引き下げ、教育の全面的な改革、教師と大臣の給与の平等」を公約した。

(3) アバーラク候補は、支持者の前で「現政権が始まって以降、モーリタニアが危機に瀕している」と強調し、自由の強化及び不動産分野の改革を約束した。

(4) 人権活動家のアベイド候補は現政権と国の状況を批判し、支持者に対して「投票日には不正に対抗し、票を守るよう」呼びかけた。その他の候補者は、汚職撲滅、資源の最適利用、女性のエンパワーメント、国の統一及び社会的結束の強化の必要性を訴えた。

3. 現政権の課題

(1) ガズワニ大統領は、政治的な安定及び調和を作り出したことを現政権の成果として掲げるが、同時に内政上の課題に直面しており、あらゆるシナリオに備えている。ヌアクショットの独立研究機関であるマグレブ戦略研究センター(ヌアクショット)のサルク所長は、モーリタニアが直面する課題として、「①メディアを通じた対外公表の弱さ：現任期中には具体的な成果がほとんど

なく、メディアがそれを評価して一般に伝えることが難しい。②多くのモーリタニア人が選挙を無意味なものに見なしており、この傾向は増加しており、これは一部の候補者に対して有利に働く可能性がある」と述べた。

(2) モーリタニアの若者は全体の65%を占め、失業率は約31%である。近年では「アメリカン・ドリーム」に憧れて数万人の若者が移住した。初期の推定では、有権者の3分の1が若者であるとされる。

(3) このため、若者の問題や移住、失業が候補者たちの関心事と選挙公約の大部分を占めている。ガズワニ大統領は「次の任期は若者のためのものであり、若者のために尽力する」と述べた。

(4) 同所長は、若者の問題はモーリタニアが抱える最も深刻な問題の一つであり、ガズワニ現大統領が若者に対して懸命にアピールしている理由は、若者が最も影響を受けている経済的及び社会的状況を認識しているからだと分析している。また、政治的な状況が以前よりも複雑になっているため、政権は若者の支持を得るためにあらゆる手段を尽くしている。

(5) 同所長は、若者の問題と移住が国家に重大な経済的及び人口学的な歪みを引き起こす可能性があるため、ガズワニ現大統領がこうした「必死の試み」を行っているとは指摘しているが、政権の信頼性の欠如や具体的な方針の証拠がないため、若者がそれに希望を持つことは難しいと述べた。

4. 野党のチャンス

(1) モーリタニアの野党は、統一候補を擁立することができず、5人の候補者で大統領選に臨むこととなった。これは努力の分散を招き、ガズワニ候補を打倒することが難しくなるとする考えもある。

(2) 他方で、市民活動家で政治家のヴァール氏によれば、野党は過去の選挙運動でのパフォーマンスから想定外の結果をもたらす可能性を示唆している。

(3) ムフタール候補の選挙集会における演説の中で、ムフタール陣営は「ヌアクショットや内陸の都市で行われた選挙集会、とりわけムフタール候補による集会は、国民が変革を渴望しムフタール候補を支持していることを示している」と述べた。

(4) 他方で、同氏はアルジャジーラネットに対し、マリとの国境やサヘル地域全般の安全保障状況が、野党候補者のチャンスを減らすと分析し、政治的安定の維持が重要であるため、この状況は軍事経験を持つガズワニ現大統領に有利に働くと考えると述べた。

5. モーリタニアの政治状況

(1) サルク所長は、当地の政治的な情勢が次の三つの要因、「①（国民）意

識の向上、②SNSの世論への影響、③人口の65%を占める若者の大多数の部族意識への反発や、市民を啓発するために政治の場に参加していること」により、重大な変化を遂げていると分析する。

(2) 他方で、同所長によると、モーリタニアの有権者に最も影響力があり、特定の候補者の勝利の可能性を高める要素は、地域的及び部族的な集まりであり、社会全体の意識の低さがその原因であると分析する。

(3) これは政権側の「武器」でもある。歴代の政権は社会に影響力及び支配力を持つ仲介者を作り出し、彼らを通じて有権者を説得し、安価に票を買うことができた。同所長は、「このようにして、国家は仲介者を役職に任命し、彼らやその家族、支持者に対して政治的な資金を提供し、様々な分野で特権を与えることで、最終的に結果に影響を与える」と説明する。

●選挙キャンペーン等（その3）

（6月18日から20日、当地政府系メディアAMI）

1. モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ（現職）

(1)（19日、ゴルゴル州カエディ）カエディで社会的弱者に優先的に配慮した社会開発モデルを採用し、教育システムの改善、保健・電力・水インフラの建設と再整備、都市・国道網の建設と復旧、農業部門促進のための条件整備を目的とした意欲的なプログラムを数多く実施することができた。次期任期で公正で豊かな国、法の支配によって統治される国にするために努力し、行政は市民に奉仕し、司法は公平に奉仕し、教育と若者の雇用に優先的に取り組む。国の構成要素の多様性を、差別、奴隷、分断といった慣習から切り離し、富、団結、協力、連帯の源泉とすべき。同州への投資を倍増させ、特に教育、保健、農業の分野に向ける、健康保険の受給者数を増やす、畜産部門の業績を向上させるための適切な条件を提供等により、国の建設と発展における若者の役割を強化するために、若者が雇用機会を利用できるように必要な条件を整えるための強力な改革を実施する。

(2)（20日、ブラクナ州アレグ）過去5年間にブラクナ州に向けられた投資総額が77億4400万ウギアに達し、教育機関、医療施設、ダムの建設、電気・飲料水供給、健康保険及び現金支給プログラムが提供された。若者の自立を促進し、経済発展における若者の役割を強化するために、雇用機会の創出、腐敗との徹底的な闘い、農業革命の開始を通じて強力な改革を行う。これらは第一期で取り組んだ政治の安定と対話、安全と安定の強化、社会的介入、共和国学校プロジェクトの実施などを継続、もしくはより一層加速する形で並行して実施される。ブラクナ州への投資を倍増し、教育と健康分野に重点的に投資を行い、健康保険の受益者数を増やし、地域経済の中心である農業部門の

パフォーマンス向上のための条件を整える。モーリタニアが隣国や世界各国との関係を強化するための積極的外交を通じて、国際舞台で重要な役割を果たすべきである、モーリタニアが他国の安全状況の改善や国際問題の解決に貢献する模範的な国となっている。次期政権では、国民の団結を強化し、法の支配と市民主義に基づいた人種差別や奴隷制、共同体主義が存在しない強固で繁栄した国家にするために全員が取り組むことが必要。

2. モハメド・アミン・ムルタジー・ワフィー

(1) (18日、ゴルゴル州カエディ) モーリタニアを汚職から救い出すには、様々な対策が必要であり自分(ワフィー)のような候補者でなければ解決できない、選出された場合には、あらゆる形態の汚職と闘い、私利私欲のためにビジネスマンが政治的職業に就いている現状を改善する。

(2) (19日、ギディマカ州セリバビ) 失業やその他の問題と闘うよう促す。教育と教育制度への国語の統合に重点を置いている。食料品価格の引き下げに取り組む。腐敗で進歩が妨げられたのを変えるために地域主義や部族主義に屈せず明確なビジョンと意思決定の厳格さが必要。慈善団体の活動は監視・検査が必要。

(3) (20日、トラルザ州ロツソ) 自身が選挙集会を開催するよりも、市民と直接会って現実を知り彼らが直面している日々の問題について話を聞くことを好む、市場の状態や路上にゴミが放置されている点を批判し現状を変えるための投票を呼び掛ける。

3. ハマディ・シディ・ムフタール・モハメド・アブディ

(1) (18日、トラルザ州ティガンド) 当選した場合には、この地区の行政区分を県(Mougataa)に格上げし、この地区と住民が特別な配慮を受けるべき。また女性と若者に投票を呼び掛ける。

(2) (19日、ティリス・ゼムール州ズエラート) 本州が持つ経済的潜在力にも拘わらず、疎外と不公正に十分に苦しんできた、鉱物資源を有するにも拘わらず、水、電気、保健といった基本的なサービスが提供されていない。当選した場合には、これらを解決する。若者は重要であり、第一回投票での投票を呼び掛ける。この国の真の再生には汚職の根絶が必須であり自身の選挙公約の中で汚職との闘いを掲げている。

4. オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

(1) (19日、タガント州ティジクジャ) 本州は他国と国境を接していない唯一の州であり、モーリタニアの中心であり、植民地支配者を追い払うために

闘った抵抗の町である。現政権の経済政策について、しばしば失敗し、将来の世代に負債を残すプロジェクトの資金調達を借金に頼っている（と批判）。

「主権を確立し、外国人に依存しない」ための科学的かつ実用的な手段を身につけるよう呼び掛ける。「国民連帯と排除との闘い（TAAZOUR）」は貧困問題を取り上げておらずイスラム法シャーリアに則ったザカートの実践を主張する。ガズワニ候補に対しテレビ討論会の開催を再度呼び掛ける。

（２）（２０日、アッサバ州キッフア）現政権による本地域への多額の投資にも関わらず、市民の生活に反映されていないことは遺憾。キッフアが抱える水不足、停電、医療施設の不足などの課題がある、大病院へのアクセスのための道路舗装が行われていない（と批判）。ガズワニ候補に対し、モーリタニアの展望を各候補が発表する対面式テレビ討論会の実施を再度呼び掛ける。

5. ママドゥ・ブカル・バー

（１）（１８日、ゴルゴル州Mbout地区での女性と若者の団体との会談）差別、レイシズム、悪政、蔓延する腐敗など、モーリタニアが直面する様々な状況があり、自身の選挙公約は国民の懸念を踏まえたものである、生活条件の改善、平和及び共存の強化、特に食料自給の確保、土地所有権への公平なアクセス、国語の効果的な普及と国の教育制度への統合が含まれている。

（２）（１９日、ゴルゴル州Lekseiba地区）自身の経験がモーリタニアを正しい方向に導く保証になる、各社会層が自国の発展に積極的に参加し、その多様な富を公平に享受できるようにする。当選した場合には、社会正義の実践、根深い腐敗との闘い、平和の強化、市民の生活改善に取り組む。（また、同地区が直面する健康、飲料水、身分証明書へのアクセスなどの課題について市民と意見交換を実施。）

6. イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

（１）（１８日、ヌアクショットの選挙本部での女性のための全国キャンペーン）この集会はモーリタニア国民の様々な構成要素とその世代を示している、モーリタニアの女性が常に国内の闘いに参加してきた。当選した場合には、女性を責任あるポストに任命する。

（２）（１９日、トラルザ州 リキーズ（R' kiz）及びメデルドゥラ（Mederdra））活動家精神と地域の問題に熱心に取り組むリキーズの若者たちを称賛する、最近の若者の活動により逮捕者が出た。若者と女性が人口の圧倒的多数を占めるモーリタニアにおいて、若者の移民問題は当国にとって大きな懸念である。

（３）（２０日、トラルザ州N' Diago地区Zira村）本地区は優れた観光地であ

り、地理的に恵まれた立地など多くの利点がある、自身が当選した場合にはこれらを最大限に活用し、この地域の若者たちに雇用を創出する。また本地域において基本的なサービスが全く提供されておらず、当地を対象とした計画の多くがまだ完了しておらず、数十年にわたって地方が疎外されている（と現状を批判）。

7. ビラム・ダー・アベイド

（19日、アッサバ州Barkeol）投票日に不正から票を守るよう呼び掛ける。当選した場合には、アッサバ州の各地区に生活必需品を支給する。政府が市民を制約する慣行や、「国家の仲介者」の行動、現政権の国家資源の管理方法を非難する。自身は「権力者」に対し真実を語り、法を適用・執行するために育った、この国の現状の根底にある部族という概念を終わらせるよう求める。

8. CENI

20日、ヌアディブ地域の独立選挙委員会（CENI）選挙コーディネーターは、同地域の選挙準備が整った旨、AMIに発表。ヌアディブ地域の有権者数は83,674人で、150の投票所を設置。投票所には投票用紙やカーテン、投票箱など必要な備品が到着しており、選挙人名簿も完成。

●選挙キャンペーン（その4）

（6月21日から25日付、当地政府系メディアAMI等）

1. モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ（現職）

（1）（21日、アドラール州アタル）特に教育、保健、環境、インフラ、農業、観光に重点を置き、アドラール州への投資の増加、健康保険の受給者数の増加、地域経済で重要な役割を果たすオアシスでの農業生産を高めるための適切な条件の整備、若者のエンパワーメントとその役割強化への注力、雇用機会を創出するための改革、浪費との闘い、食料自給達成のための農業革命、行政改革、地方分権の強化、民間部門と生産部門の促進・支援、畜産・漁業・鉱業部門の業績促進、国の安全と安定の維持を公約として説明。

（2）（22日、タガント州ティジクジャ）法の支配があり、行政が効率的で市民に奉仕し、協力的なプロの軍隊があり、教育と若者の雇用が優先されるような、強く繁栄した国家の建設への注力、雇用機会の創出、食料自給を可能にする農業革命、若者の役割を強化するための適切な条件の整備、畜産・農業・観光への注力を公約として説明。

（3）（24日、インシリ州アクジュージト）法の支配の強化、強力な経済の

確立、人的資本の開発、社会統合・国民団結、包摂的市民権の5つの主軸に基づく開発プログラムの実施、奴隷制、人種差別、派閥主義の撤廃、軍隊と治安部隊の発展、地域的・国際的なモーリタニアの対外的役割の強化と促進、資源採掘の管理体制の整備、再脆弱な住民の生活コスト対策を公約として説明。

(4) (24日、ガズワニ候補の報道官から、) ガズワニ候補が第一回投票で勝利すると確信する旨発言。

2. モハメド・アミン・ムルタジー・ワフィー

(1) (21日、ヌアクショット) ビジネスマンの政治関与の禁止、起業家や中小企業の経営者への免税付与、汚職対策、政治的ポストと専門的ポストの峻別を公約として説明。

(2) (21日、北ヌアクショット州) 汚職対策を公約として説明。以前は「若者の候補者」と呼ばれていたが、現在では「女性の候補者」にもなっていると発言。

(3) (23日、ダーヘル・ヌアディブ州ヌアディブ) モーリタニアの現実改善のための改革プロジェクト推進、ヌアディブを美しい観光都市の一つにすることを公約として説明。

(4) (24日インシリ州アクジュージト) 実業家や政党から資金提供されたものではなく、自らの努力によって選挙キャンペーンを行っている唯一の候補者と発言。

3. ハマディ・シディ・ムフタール・モハメド・アブディ

(1) (21日、アドラール州シュム) 独立選挙委員会(CENI)は、公正かつ透明な方法で選挙人名簿を調査・監査するという候補者の要求に応じることを拒否したと発言。観光客を惹きつける適切な観光環境を提供するためのインフラ整備を公約として説明。変革をもたらすためにあらゆる不正を阻止するよう呼びかけ。

(2) (21日、タガント州ティジクジャ、アドラール州アイン・エッサブラ) この国は痛みを伴う持続不可能な道を歩んでいる、一人の候補者の利益のために国の資源を搾取する等、容認できないある種の乱用に警告を発する、「(選挙活動で) 政権候補を推すために去った公務員の不在」によって、国政レベルでの市民の利益が妨げられている、自身の公約に投票することで、政治的志向や所属に関係なく、市民が平等でまともな生活を享受できる、より良い未来への変化を確実にすることができると発言。

(3) (23日、ホード・エッシャルギ州ネマ) 国境における市民の安全確保、国の領土保全と国民の生命を守るための軍隊及び治安部隊への資材・装備

の提供、家畜開発センターの創設、教師、教授、医師の給与増額、汚職対策を公約として説明。

(4) (24日、ホード・エル・ガルビ州アイウン) イスラム教の教えに従った、女性の生活のあらゆる分野への参加、市の直面する問題のすべての解決を公約として説明。

4. オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

(1) (21日、ホード・エッシャルギ州ネマ) 政府の州開発プロジェクトは国民の生活には何の影響も与えなかった、失敗の原因は、着手前の経済的フィージビリティ・スタディに対する関心の低さにある、勝利したら、人々のニーズに合った経済プロジェクトを実施するとして公約を説明。

(2) (22日、ホード・エル・ガルビ州アイウン) 政府はアイウンのイスラム科学大学に600室の学生用宿舎建設することを約束したが果たせず、教育改革と教師の待遇改善を約束したが果たせず、2か月前に教師たちがストライキを起こしたときには、要求を解決するどころか、取り締まりさえ行った、アイウンは、水と電気の供給を政府が約束したにもかかわらず、いまだに深刻な飲料水不足と頻繁な停電に悩まされているとしつつ、勝利したら、改革に着手して人々に希望を取り戻す、自分(ソマリ候補)は医者であり、医者は患者に嘘をつかないので、その約束は嘘ではないとして公約を説明。

(3) (23日、ギディマカ州セリバビ) ギディマカのすべての町と地方をマネンタリ・ダムからの電力でつなぎ、カンクーサ県とすべての孤立した村や地方に舗装道路を完成させるとして公約を説明。

(4) (24日、ゴルゴル州カエディ) 若者たちがこの国の富の恩恵を受け、失業を減らし、外国人労働者の輸入を防ぐことができるように、ガスと石油の分野で職業訓練を提供する必要がある、公立学校は重要であり、仏語の教育を維持しつつも、国家の結束を固めるためには、初等レベルでの国語の学習と教育が重要として公約を説明。

5. ママドゥ・ブカル・バー

(1) (20日、ゴルゴル州カエディ) 正義と法の支配の国家を建設することを目的としている、汚職、浪費、疎外と闘う、永続的な平和と団結を保証するために不可欠な人道面での負の遺産の公平な解決、すべてのモーリタニア人の現実を反映した真の共和制学校の設定、モーリタニアが保有する多様な富の分配に取り組むとして公約を説明。

(2) (21日、ブラクナ州ンバーニュ) モーリタニアが直面している排斥、農地の没収、戸籍(etat civil)へのアクセス、失業、物価統制等の問題解決

に自分の経験を役立てる、若者が大量に海外に流出していることは嘆かわしい、これまでの公共政策が失敗であった、教育制度の改革が急務、として公約を説明。

(3) (23日、ブラクナ州ボゲ) 差別、憎悪の台頭、共同体主義、浪費、汚職等の責任は歴代政権にある、自分(バー候補)が提案しているのは、統一され、公正で平等主義的なモーリタニアのビジョンである、優先事項として、コミュニティの同意なしに農地が強奪される問題、戸籍へのアクセスの課題(その管理は市町村の責任であるべき)、国民統合を強固にするための国語の公用化、社会の構成要素間の機会均等などに取り組むとして公約を説明。

(4) (24日、トラルザ州ロッソ) 投票の透明性のために投票所の監視を呼びかける、平等、連帯、正義、公平に基づき、国政全般の遠大な改革に取り組む、国民の一部から文化的表現の基本的権利を奪っている「言語差別」を糾弾する、等を発言。

6. イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

(1) (20日、トラルザ州クール・マセーヌ) 公約は若者たちに良い方向への変化を保証するもの、若者の移住は疎外や失業等いくつかの要因による、クールマ・セーヌは、ヌアクショット港からの舗装道路やその他の基本的なサービスの恩恵を受けていない、農地が県外の人々に与えられ、地元の人々は恩恵を受けていない、投票日に若者たちが団結して投票所を監視し、「不正」と闘うよう呼びかける、と発言。

(2) (21日、トラルザ州ブティリミット) 未来を望む者は、現在の状況を変えなければならない、と発言。

(3) 23日、ブラクナ州マル) 国民の生活条件の改善や、従業員や公務員の購買力を向上させるための賃金政策の見直しに具体的な優先順位をつけて取り組むとして公約を説明。

(4) (23日、ホード・エル・ガルビ州タンタン) 将来の世代に格差や疎外感のないまともな生活の場を保証する、16歳以下のすべての子供たちに教育を提供するとして公約を説明。

(5) (24日、ホード・エル・ガルビ州トゥイル) トゥイルには住民の生活環境を改善するための特別なジェスチャーが必要と発言。

7. ビラム・ダー・アベイド

(1) (20日、トラルザ州リキーズ、メデルドラ、ティガン) 変化に備えるよう呼びかける、投票日に不正があった場合はCENIに報告するよう呼びかける、当選したら、不当に奪われた資源をすべて国に返還し、すべての町に衛

生施設を設置し、保健、教育などのサービス部門を発展させるとして公約を説明。

(2) (22日、ブラクナ州ボゲ、ウエド・ナカ、ブティリミット、トラルザ州アジュール) 投票所を直接かつ集中的に監視するよう呼びかけ、「国民への脅迫政策、軍隊の政治への干渉、飢餓政治の利用」と政権批判を発言。

(3) (23日、ブラクナ州アレグ) 高い生活費、教育と医療の欠如等、政権が「国民を殺している」、「不正行為」と称するものから守るために投票所を監視するよう呼びかける、法の支配を構築するために協力し、手を取り合うことを呼びかける、と発言。

(4) (24日、トラルザ州ロツソ、クール・マセーヌ) 若者に雇用の門戸を開き、国民皆保険を提供する計画を策定する、汚職と闘い、公金を略奪する者をすべて職から追い出す、ビジネスマンを政治に関わらせないとして公約を説明。

8. その他

(1) 21日、CENI 報道官は、特に偽情報に関して関心をもって見守っている、これまで自由で公正な競争の中で行われている選挙プロセスに満足、と発言。また、ごみ箱から発見され、世論をミスリードする目的で否定的に広く報道されている選挙人証のコピーについてはCENIが使用していた印刷所の前で回収され、ごみ箱に捨てられたスクラップに過ぎないと指摘し、本件は様々な見方をされているが、投票作業とは無関係であり、いかなる影響も及ぼさないことを強調。

(2) 22日、AU選挙監視団(27名)が当地到着。

(3) 24日、アベイド候補の支持者がガズワニ候補を支持する与党インサーフ党の集会に乱入して「暴動」が発生したとして、ヌアディブでアベイド陣営関係者が逮捕。内務省及びCENIがこれを非難する声明を発表、アベイド陣営は関与を否定。

(4) 25日、ヌアクショットで、パティア憲法評議会議長は、(選挙監視のために当地を来訪している)ヌール大使率いる国際仏語圏機関(OIF)使節団を迎え、特に選挙の透明性と監視の強化の分野におけるOIFと憲法評議会の協力強化に焦点を当てた会談を実施。

●「暴動」事案

(6月25日付、当地政府系メディアAMI他)

1 24日夜、ヌアディブで、ある大統領候補の支持者の一部が、別の候補者を支持する若者が開催した選挙集会に対して引き起こした暴動を受け、内務・

地方分権省は、治安維持の責任の一環として、これらの行為を強く非難する。

(2) また、市民及びその財産の安全及び平穩を損なう行為を敢行する個人であれ集団であれ、それに対してはいかなる容赦も容認もしないことを想起する。

(3) 治安部隊は万全の態勢を整えており、必要な手段はすべて使える状態にある。彼らは、治安及び平穩に対するあらゆる攻撃に対して、その性質や原因が何であれ、断固として厳しく対抗するよう絶対的な指示を受けている。

(4) 行政当局及び治安当局は、選挙キャンペーンの民主的な伝統や規範に完全に反し、法的に犯罪に当たる行為をする犯人に容赦なく対処し、国内で施行されている法律及び規則に規定された罰則を適用する。

(5) この文脈において、内務・地方分権省は、法律で保証された公共の自由を尊重しつつ、競争者の選挙運動の実施に適切な条件を確保することへの関心は、治安、安定及び平穩を確立するという決意に匹敵するものであることを確認し、すべての国民に対し、安全や財産を心配することなく、自由かつ快適に自分の意見を表明し、自らの選んだ候補者に投票する憲法上の権利の行使を保証するために、必要なすべての措置が講じられており、今後もそれが強化されることを確約する。

2 (1) モハメド・タキユラ・エル・アドハム独立国家選挙委員会 (CEN I) 報道官は、24日夜にヌアディブで発生した次期大統領選挙の候補者の選挙集会に対する暴動を非難した。

(2) 同報道官は、CEN Iの毎日の記者会見で、同機関が6月の大統領選挙における候補者の行動規範草案を発表したことを指摘し、その中には、すべての候補者の支持者に対し、選挙キャンペーンを賢明かつ平穩に行う呼びかけが含まれており、この分野での有効な法律の厳格な適用を強調した。

(3) 同報道官は、大統領候補者の代表が24日、CEN I委員長の招きで同委員会本部を訪れ、選挙プロセスの進捗状況について協議したと述べ、会合の結果は満足のいくものであり、参加者は透明で自由かつ公正な選挙の実施という望ましい目的を達成するためにあらゆることを行う意思を表明したと付言した。

(4) 合意された点としては、県レベルでの候補者代表リストの作成ペースを速める必要があること、候補者代表の性質、及び県での候補者代表を優先的に選択する必要があるとあり、そうでない場合は地域の候補者代表、国レベルの候補者代表を選ぶことが挙げられた。

(5) CEN I報道官は、会合では、投票記録が結果の選別の基礎であり、レファレンスであり、最初の構成要素であること、投票は公共の場所でのみ行わ

れることが決定されたと付言した。

3 (1) ヌアディブでは、ガズワニ候補陣営の青年が主催したイベントで、多くの人々が公式ステージに乱入し、アベイド候補の名前を叫ぶ行為に関与したとして、国家憲兵隊は、反奴隷闘争復イニシアチブ (IRA) のヌアディブ市代表ムラービト・ウルド・マフムード氏を逮捕した。

(2) アベイド陣営は、与党インサーフ党が主催したイベントに関して、ヌアディブで発生した暴動との関係を否定した。

(3) 「ヌアディブ市のインサーフ・ユース・フェスティバルの最中に起きた暴動は、お粗末な演出に過ぎない」、「その狙いは、まじめな野党候補であるアベイド代表のイメージを落とすことにある」、「アベイド候補はこれらの妨害行為を非難し、平和的な立場を堅持し、市民的で民主的な雰囲気の中で他の個人やグループの自由を侵害することなく、政治的な意見の違いを尊重するよう呼びかけている」、「マフムード氏は、ヌアディブで15年間IRA代表を務めており、この間自分 (アベイド候補) の支持者による暴力は確認されていない、一部の人々により事実が歪曲されようとしているが、自分の選挙集会や選挙活動は平和裡に行われている」等と声明で述べた。

●選挙キャンペーン等 (その5)

(6月25日から27日付、当地政府系メディアAMI他)

1. モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ (現職)

(1) (25日、ダーヘル・ヌアディブ州ヌアディブ) (成果の紹介の後) ヌアディブを近代的な都市に変貌させること、社会活動の分野での成果倍増、教育と保健サービスの改善、水・電気の問題の解消、州の青年を教育、文化、スポーツの分野で支援、労働者の問題の解決、生活条件の改善、漁業部門に特に注意を払い、同部門が発展においてその役割を十分に果たせるようにすること、経済特区のパフォーマンスを向上させるために適切な条件を提供し、州の労働者にとって魅力的な施設となるようにすること、健康保険、水道、電気、教育、保健などの基本的なサービスへのアクセス、共和国学校プロジェクトの継続的な実施、教育スタッフの物的条件等の改善、市民との距離を縮めるための行政改革の実施、浪費や汚職との闘いの実施、年金改革の実施、治安と安定強化の努力 (その文脈で24日夜の選挙集会に対する個人による襲撃は容認できず、法律に反すると指摘。)

2. モハメド・アミン・ムルタジー・ワフィー

(1) (25日、ティリス・ゼムール州ズエラート) 前政権下で疎外と絶望に

苦しんできた国民の弱者層に大きな期待を寄せている。

(2) (26日、ティリス・ゼムール州ズエラート) 故郷のホード・エッシャルギ州ネマからキャンペーンを開始し、ズエラートで選挙キャンペーンを締めくくった。

3. ハマディ・シディ・ムフタル・モハメド・アブディ

(1) (25日、ギディマカ州セリバビ、ウルド・イエンゲ) 「安全で繁栄し安定したモーリタニアへの総合的な変革」をもたらし、「腐敗と公金横領」の根絶を約束。「タワースルの象徴であるヤシの木」が国全体を覆い、国民が国家からのすべての権利を享受するため、国民の支持を呼びかけ。農牧業の州(ギディマカ州)の州都セリバビは、それに値する注目を受けてこなかったが、公約は市民にとって不可欠な分野に焦点を当てている、現政権を排除し、特に教育、保健、水、電力など、市民のあらゆるニーズを満たす新政権にチャンスを与える必要がある、在外モーリタニア人コミュニティを保護するためにイスラムセンターを開設し、すべてのモーリタニア人に大使館と領事館を開放するという外交システムの見直しに取り組む、激流や洪水から市民を守るためのダム建設や、市内に浄化システムを設置することにも取り組む。

(2) (26日、ゴルゴル州カエディ) 現政権を「国の運営に失敗し、悲劇に次ぐ悲劇をもたらすだけの腐敗した政権」と非難。タワースル党の計画は、停電、水不足、医療システムの失敗、道路の劣化、家畜及び農業開発の無視、人道的遺産の問題を解決し、「アラブ人と外国人の間に信仰心以外優位性はない」という原則のもと、国民全体の融和を実現できると強調。

4. オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

(1) (25日、トラルザ州ボゲ、アレグ) ガズワニ候補をテレビ討論に招待、26日に予定していた選挙集会を州行政当局が拒否したことに抗議、若者の失業と闘い、国を発展させ、法の支配を確立するために、自分に投票することを呼びかけ。

(2) (26日、トラルザ州ロツソ) ロツソが農業に優れた都市、食料自給を達成し、国家経済を前進させるためのレバレッジとなり得ることを指摘。経済分野における主権を達成するため目標の明確化が必要。ガス資源を経済プロジェクトに活用するため、ガス、石油、鉱業分野における若者の訓練施設の開発、インフラ投資の重要性を強調。

5. ママドゥ・ブカル・バー

(1) (25日、ティリス・ゼムール州ズエラート) 自分は、いくつかの候補

者には当てはまらない「クリーンハンド」である、これまでの教育改革を批判、州の潜在能力に応じて地域経済の拠点を発展させる。

(2) (26日、アドラール州アタール及びインシリ州アクジュージト) (国民統合を強固にするための) 国語の公用化、人道的な取組みを最終的に解決するための独立調査委員会の設置、全てのモーリタニア人が権力及び資産に平等にアクセスできる法の支配の推進などの公約を説明。

6. イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

(1) (25日、南ヌアクショット州アラファト) モーリタニアの安全が脅かされた場合、自分とその支持者は国を守るために最前線に立つ、モーリタニアはすべての国民のものであり、国民や公共・私有財産に対するあらゆる形態の攻撃や暴力を防がなければならない、自分は特定のグループではなく、モーリタニア国民全員の名において立候補している、特に若者がまともな生活を送り、国の発展に貢献できるよう、教育、保健、雇用に注力する。

(2) (26日、ブラクナ州ニアビナイ) 法学者として司法改革を優先。教育と健康の分野を発展させ、ブラクナ州の農業と畜産の特性を考慮した開発を進める。国家の統一及び社会的結束を強化し、特に脆弱なグループの生活条件を改善することを最優先に取り組む。

7. ビラム・ダー・アベイド

(1) (25日、ヌアクショット南部アラファト地区及びリヤド地区) ヌアディブで発生した抗議に関して、「物価の上昇、教育や雇用機会の欠如、若者の希望の喪失に対する反動」と述べた。自身が代表を務めるIRAの関与を否定。

(2) (26日、ヌアクショット西部セブハ) 「29日(土)が現政権の終わりの日」と述べ、「汚職、貧困、不正、不平等の政権」と現政権を非難。現政権が汚職問題に取り組んでいない旨指摘。

8. その他

(1) 26日、国際フランコフォニー機関(OIF)の選挙監視団が報道・視聴覚高等機関(HAPA)を訪問。選挙の監視と候補者のメディアへの公平なアクセスの保証におけるHAPAの業務、またメディアの監視、メディア専門家の訓練、選挙教育の促進、偽情報との闘い、候補者のメディアへの公平なアクセスを保証するためのHAPAの取り組みについて説明を受け、技術監視センターを訪問し、今回の大統領選挙におけるHAPAの活動をビデオで視聴。

(2) 26日、CENI報道官は、腎不全患者からの要望に応え、病院の近く

に投票所を開設する予定と発表。すべてのパートナー、候補者、支持者及びメディア関係者に対し、28日終日選挙活動を停止し、選挙沈黙期間を尊重するよう求めた。選挙人名簿の信頼性と堅固さに関する記事について、更新された選挙人名簿は信頼性が高く、堅固であると説明し、同名簿の情報の正確性及び完全性を強調。更新前の名簿に比べ（登録者が）8%増加。女性、若者、高齢者、特別なニーズを持つ人々など、すべての社会カテゴリーに関する量的な統計情報が含まれる。

(3) 27日、当地米国大使館は、米国はモーリタニアの民主化を支援することに強くコミットしていると述べ、6月29日の投票に積極的に参加するよう市民に呼びかけ。米国大使館からCENI公認のスタッフが選挙を監視し、全国の様々な投票所を訪問する。本年初め、米国政府は、選挙管理を強化し、すべての有権者の投票権を促進するため、CENIに財政支援を実施。

(4) 野党による選挙人名簿の監査を依頼した国際専門家の報告公開。

(5) 26日、トラルザ州ロツソでのガズワニ候補の選挙集会における若者逮捕。

●ロツソでの選挙集会における若者の逮捕

(6月26日付、当地独立系メディア「アル・アフバール」)

1. ガズワニ現大統領が、ロツソの「ラマダン」スタジアムに到着した際、活動家の若者たちがガズワニ大統領を追いかけ、「ゼロ」と連呼し、警察はこれら一部の若者を逮捕した。

2. 拡散されたビデオ映像には、若者たちの非難の叫び声が記録されており、ガズワニは手を振って応じた。

3. 「アル・アフバール」によると、警察はこれらの叫び声を上げた一部の若者を逮捕し、警察関係者は彼らを「集会で混乱を引き起こそうとした若者たち」と表現した。

4. ガズワニ候補は、26日の夕方にロツソ市での集会をもって地方での選挙活動を締めくくった。この集会で、トラルザ州の農業と開発を推進し、モーリタニアが完全な自給自足を達成できるようにすると約束し、「モーリタニアが農業分野で自給自足を達成できるようにする農業革命を起こす」と述べ、トラルザ州がその革命の先頭に立つとした。さらに次期政権での自身の計画は、あらゆる面で深く発展的な変革を実現するものであり、野心的でありながら現実的であると付け加えた。

●選挙名簿の監査報告

(6月26日、当地独立系メディア「アル・アフバール」他)

1. 26日、モーリタニア野党によって選挙人名簿の監査を依頼された国際専門家の報告が公開された。同報告書によれば、選挙人名簿の420人が、国民ID番号を除き、名前、父親の名前、姓、生年月日及び出生地に関して同じ情報を共有していることが明らかになった。野党は、この420名の写真も非常に似通っていると述べた。さらに報告書は、3043人の有権者が名前、父親の名前、姓及び生年月日で同じ情報を共有し、出生地及び国民ID番号だけが異なることを指摘している。

2. 国際専門家のセラファン・クアホ氏は、各投票所の平均有権者数が約431人であると述べた。また、同専門家は、一部の投票所には60人の有権者しかいないとも述べており、半数の投票所が454人以下、約75%の投票所が有権者は553人以下である。また、1つの投票所に登録されている最多有権者数は883人であり、これは平均を大きく上回る数字であり、一部の投票所が非常に混雑することを示している。

●選挙キャンペーン等(その6)

(6月27日から28日付、当地政府系メディアAMI他)

1. モハメド・ウルド・シェイク・エル・ガズワニ(現職)

(1) (26日トラルザ州ロッソ) 成果の紹介。社会の恵まれない層への社会的介入を強化し、水、電気、教育、保健などの基本的サービスへのアクセスを改善する野心的なプログラムを実施することで、あらゆるレベルの開発に大きな変革をもたらすために努力する。社会の恵まれない層への社会的介入を強化し、水、電気、教育、保健などの基本的サービスへのアクセスを改善する野心的なプログラムを実施することで、あらゆるレベルの開発に大きな変革をもたらすために努力する。また、健康保険の拡大、共和国学校プロジェクトの継続実施、教育・保健・軍隊・治安部門の職員の物的条件等の改善、市民との距離を縮めるための行政改革、浪費や汚職との闘い、若者の責任をさらに高めることも約束する。

(2) (27日、ヌアクショット) 安全、安定、市民の平穩の維持が最優先事項である。モーリタニア国軍と治安部隊は市民の安全を確保し、領土の一体性を守る能力がある。国民統合を強化し、社会のあらゆる層の間に正義と公平を確立し、地位、権利、待遇の面で平等を確立するために努力する。法の社会的介入の継続と強化、医療保険へのアクセス拡大、経済均衡の管理、雇用創出と

インフレーション対策、賃金の引き上げ、退職金制度の改革、行政の改革とサービスの向上、公金の乱用に対する腐敗対策と地方分権の推進に重点を置く。若者の能力開発に焦点を当て、訓練、統合、昇進、雇用のためのリソースを動員し、汚職との闘い、農業革命の推進、鉱業部門の支援、漁業政策の見直し、畜産部門の発展、民間部門の活性化を目指す。次期政権では、国民が直面する課題を特定、解決する小委員会を設置することを約束する。選挙キャンペーンがポジティブな雰囲気で行われたことに感謝、この雰囲気を維持し、透明な選挙を実施し、その結果を尊重するよう呼び掛ける。

2. モハメド・アミン・ムルタジー・ワフィー

26日に選挙キャンペーン終了済、追加報道なし。

3. ハマディ・シディ・ムフタール・モハメド・アブディ

(27日、ヌアクショット南部アラファト) 選挙キャンペーンを通じて国全体を回り、タワースル党への国民の支持を確認した。当選した際には、「シャリーア（イスラム法）」と「預言者ムハンマドのスナ（ムスリムとして模範的な行動指針）」を適用することを改めて約束する。現政権が続く場合、物価の高騰や、水、電気、医療といった必要なサービスの欠如に苦しむことになる。若者による一層の変革の促進を呼びかけ、若者の生活条件を改善するために全力を尽くす。労働者、農民、医師、警備員、教師に最善の選択をするよう求める。パレスチナ問題は、すべてのモーリタニア人にとって最も重要な問題である。自分（ムフタール候補）とその支持者は政権から嫌がらせを受けている、言論の自由に対する妨害を非難する。ソマリ候補の最後の集会在予定された場所でその開催を阻止されたことを批判する。

4. オトマ・アントワン・ソレイマン・ソマリ

(27日、ヌアクショット) 選挙本部で記者会見を行い、選挙戦を終えた。警察は閉会式のステージでの作業を中断させ、選挙キャンペーン本部への支持者の立ち入りを妨害し、これは違法である。これを受けて支持者たちは選挙キャンペーン終了時刻まで選挙本部に留まることを決めた。政権からの圧力は2日前から続いており、ロッソでは、選挙集会在当初予定されていた場所で実施できないと言われ、その後、青年運動本部前での集会を阻止しようとする試みがあり、これは現政権が自分（ソマレ候補）の影響力を恐れていることを示している。選挙が第二回投票に進むことを確信している。

5. ママドゥ・ブカル・バー

(27日、ヌアクショット西部セブハ) モーリタニアは、豊富な鉱物資源、ガス資源、漁業資源、農牧資源の配分と意思決定へのアクセスを見直す必要がある。国民が健康、教育、水、雇用、その他の公共サービスの不足に苦しんでいる状況を批判する。モーリタニア社会の一部の層のみが政治的・経済的影響力を持つ状況に終止符を打つため、自分(バー候補)は自己犠牲のもと、正義を貫くために投獄された。

6. イード・ムハンマドゥン・ムバーラク

(27日、ゴルゴル州カエディ) 地理的な位置と人口密度の高さからゴルゴル州カエディを選んだ。投票日に投票するよう人々に呼びかける。国民の団結を強め、社会的結束を固めることを誓う。当選した際には、訪問したすべての州が直面する飲料水供給の問題の解決に取り組む。国民の利益を擁護し、特にモーリタニアの主要な原動力である若者と女性の擁護者となることを約束する、彼らに雇用機会を提供し、優先事項の一つである失業撲滅に取り組む。支持者に対し、投票所での監視活動の強化を勧告し、不正に対して警告する。

7. ビラム・ダー・アベイド

(27日、ダーヘル・ヌアディブ州ヌアディブ) 29日に大量に投票し、「不正行為」から投票所を守り、不正行為があった場合はCENIに報告するよう呼び掛ける。当選した際には、全ての労働者の地位を正常化し、「奪われた権利」を回復するため取り組む。軍部を政治から遠ざける必要がある。モーリタニアは「国民の飢え、選挙結果の捏造、公金の横領、そして教育の欠如」により脅かされている。一部のビジネスマンによる市場の独占を拒否し、市場の自由化を求める。

8. その他

(1) 29日に実施される大統領選挙に向けた選挙キャンペーンが27日24時に全国で終了し、29日午前7時に投票が開始されるまで選挙沈黙の段階に入った。6月29日の選挙では、合計1,939,342人の有権者が投票すると予想されており、そのうち53%が女性となる。CENIは、すべての地域委員会、県委員会、行政機関、海外のモーリタニア人コミュニティ事務所が、投票、その組織、監督を進めるための準備を完全に整え、準備万端であることを発表した。CENIは、全国の投票所に選挙用品が届けられたこと、投票プロセスの監督を担当する職員の研修が終了したことを確認した。CENIは候補者やメディアを含むすべてのパートナーに対し、27日の深夜からすべての選挙活動を中止し、選挙の静寂を尊重するよう要請。投票は、6月29日

の朝7時に開始され、夜7時に終了する予定。

(2) 27日、ウムム野党連合代表は、記者会見において現在の選挙は一方的であり、結果は事前に決まっているため、与党は関心を持っていないと述べた。また、1960年代から今日まで続く一部の人々（ビジネスマン、部族の長老たち、スーフィー教団の導師たち）が政治に関与し、特定の候補を支持することを嘆いていると指摘した。さらに、企業が一部の候補のみ支援している状況を非難した。

(3) 27日、AUから派遣された選挙監視団は、憲法評議会議長と、公正で民主的な雰囲気の中で選挙の透明性と実施を監視する方法について話し合った。

●票集計の途中経過発表を受けた抗議活動

(6月30日)

1. デモ活動の発端

6月29日の大統領選挙第一回投票が実施された、選挙管理委員会（CENI）は、同HPにおいて各候補者の得票状況をリアルタイムで発表していた。全体の集計が8割を超えた30日正午に、アベイド候補は記者会見を開き、選挙結果を不正なものであるとして、今後発表予定の選挙暫定結果の承認を拒否する旨を発表した。その時点で、アベイド候補の得票率は約22%で、一位のガズワニ現大統領が約55%と大きく引き離す状態であった。

2. 現場の状況

(1) 抗議デモの規模：現時点では、ヌアクショット南部のリヤド地区、セブハ地区及びアラファト地区に限られている。アベイド候補の居住地があるリヤド地区からヌアクショット中心部のCENI本部へデモ行進を呼びかけ、50人から70人が参加しているとの情報あり。

(2) 主な出来事：治安部隊とデモ参加者の衝突、タイヤへの放火。現時点で略奪などの被害は確認されていない。

(3) 被害状況：現時点で、デモ隊、治安部隊ともに負傷者などの情報は確認されていない。

3. 政府の対応

ヌアクショット南部のリヤド地区、セブハ地区及びアラファト地区を中心に、警察及び国家警備隊を配備。テブラグ・ゼイナ地区のアベイド候補選挙キャンペーン本部は、警察が包囲し出入りを封鎖した。

●大統領選挙第一回投票の暫定結果を発表

(6月30日23時頃、My GENI)

暫定結果によれば、ガズワニ現大統領(与党インサーフ)が有効投票数の過半数を得票しているため、今後不服申立てプロセスを経て、憲法評議会がガズワニ候補の当選を最終結果として発表する見込み。

1 投票概要

- (1) 有権者数：1,939,342人(注：当地人口は約473万人)
- (2) 投票者数：1,074,208人
- (3) 無効票数：53,787票
- (4) 白票数：31,608票
- (5) 有効投票数：988,813票
- (6) 投票率：55.39%(注：2019年の大統領選挙の投票率は62.63%、昨年5月に実施された国民議会・州議会・市町村議会選挙(トリプル選挙)の第一回投票率は71.8%)

2 各候補得票数及び得票率(括弧書き)

- (1) ガズワニ候補(与党インサーフ)：554,956票(56.12%)(暫定的に当選)
- (2) アベイド候補(野党サツワープ)：218,546票(22.10%)
- (3) ムフタール候補(野党タワースル)：126,187票(12.76%)
- (4) ムバーラク候補(野党FRUD)：35,288票(3.57%)
- (5) バー候補(野党AJD/MR)：23,617票(2.39%)
- (6) ソマリ候補(無所属)：20,360票(2.06%)
- (7) ワフィー候補(無所属)：9,875票(1.00%)

3 在外投票含むモーリタニア各州別の結果

国内では、2州を除きガズワニ候補が一位の得票率。ダーヘル・ヌアディブ州及びヌアクショット南部でのみ、アベイド候補が一位となった。在外投票では、サウジアラビア、UAE、ギニアビサウでガズワニ候補が一位、コートジボワール、米及び仏でアベイド候補が一位、ガンビア及びカタールでムフタール候補が一位となった。

●抗議デモを受けた内務省声明

(6月30日付、内務・地方分権相記者ブリーフィング)

- 1 大統領選挙を特徴づけた平穏な環境を維持するため、内務・地方分権省

は、すべての市民及び住民が昼夜を問わず自由を行使し、活動し、移動できるようにするため全国的に治安を確保する責任を果たすべく、国内各州の行政・治安当局に対し、公共の秩序を乱そうとするいかなる企てにも対抗できるよう、監視を続けるよう指示した。

内務・地方分権省は、治安と平穏に対するいかなる攻撃も、いかなる状況下でも、いかなる代償を払っても許さないこと、また、すべての治安機関は、全国の公共の治安及び平穏を損なおうとするいかなる試みにも断固として対処するために、必要な指示、手段及び能力があることを、すべての人に想起する。

2 同様に、国を運営しようとする人々は、市民とその財産の安全を確保することに誰よりも関心を持つべきである。

3 国民統合に敵対することで知られる一部の人種差別主義運動が、卑劣な目的を達成するために大統領選挙の波に乗っていることが観察された。

4 また、特定の候補者に所属する群衆、日和見主義者及び騙された青年達が、首都の特定の地域で終日、タイヤを燃やしたり、交通を妨害したり、平和的な市民を威嚇しようとしたり、彼らの財産を損壊したりするなどの暴動を起こし、平穏と治安の雰囲気壊そうとしたことも確認された。

5 嚴重な警備計画のおかげで、治安部隊はこれらの非難されるべき妨害行為を速やかに殲滅し、事態を完全に収拾することができた。

6 最後に、内務・地方分権省は、状況は正常であり、コントロールされており、心配する必要はないことを市民に再確認するとともに、市民が日常生活や活動を自由かつ普通に続けるよう呼びかける。

【外政】

●ガズワニ大統領の韓国・アフリカサミットへの参加
(6月3日から6日付、当地政府系メディアAMI)

1. 全体概要

(1) AU議長国を務めるガズワニ・モーリタニア大統領は、6月4日及び5日にソウルで開催される「韓国・アフリカサミット2024」に参加するため、3日夜韓国に到着した。

(2) ガズワニ大統領は、オ・ギウン (Mr. Oh Ki Woong) 中小企業・スタートアップ大臣、キム・ヒョンオン (Ms. Hyunwon Kim) 中東担当儀典長らに迎え

られた。

(3) 今回のモーリタニア代表团は、ダー (Dr. Mariem Mint El Dah) 大統領夫人、ンジャイ (Mr. Moctar Ould Diay) 大統領官房担当大臣、メルズーグ (Mr. Mohamed Salem Ould Merzoug) 外務・協力・在外モーリタニア人大臣、エル・ハッジ (Mr. Sidya EL HADJ) 駐韓モーリタニア大使、大統領府顧問、大統領府参事官、国家儀典長で構成される。

2. ガズワニ大統領による開会式でのスピーチ (仮訳)

(1) まず、尹錫悦韓国大統領に、今回の韓国・アフリカサミットの質の高さと厳格な開催についてお祝いを申し上げるとともに、我々アフリカ代表团を温かく迎えてくださった大統領、韓国政府及び国民に謝意を表する。

(2) 我々のサミットのテーマである「共に築く未来、共有された持続可能な成長、相互依存」は、単なる希望の表明ではなく、実際、今日の世界が直面している課題の規模によって課された必要性を意味している。

(3) これらの課題の深刻さと、環境、安全保障、経済、社会の様々な側面は、日々、国家や民族としての我々の運命の相互依存を明らかにし、相互依存と持続可能な共同成長の枠組みの中で、我々が共に築き上げようとしている未来以外の未来を手にするには不可能であることを示している。

(4) 本日の我々の顕著な出席は、アフリカ諸国が韓国を高く評価していること、相互尊重の枠組みの中で、相互利益と持続可能な成長に基づき、我々が共に築く未来の礎となる実りあるパートナーシップを構築し発展させることにより、このスローガンの意味の実現に向けて努力したいという双方の誠意を反映している。

(5) アフリカ諸国と韓国との関係には、友好と協力の長い歴史があり、特に最近の韓国・アフリカ経済サミットでは、両国の経済協力の視野が広がり、目覚ましい発展を遂げた。この視野には現在、エネルギー、環境、インフラ、訓練、技術的専門知識の交換など、極めて重要な分野が多く含まれており、これらはアフリカのアジェンダ2063の実施にとって中心的なものであり、国連のアジェンダ2030とも完全に一致している。

(6) 確かに、両地域間の貿易は対外貿易全体の2%にも満たないため、この協力はまだ我々が期待していたレベルには達していないが、我々はこのサミットに期待し、我々のパートナーシップを最も高いレベルに引き上げるための決定的な一歩を踏み出したいと考えている。

(7) このパートナーシップは、エネルギー転換、食料自給、地場産業の振興など、多くの分野における我々の共同協力の実施状況を評価する機会を与えてくれるだろう。また、このパートナーシップは、持続可能で互恵的な協力関係

を強化するためのメカニズムを導入する機会でもあり、これを通じて我々は発展と連帯を分かち合い、共に築く有望な未来を確かなものにする。

(8) アフリカ大陸の広大な天然資源、人口動態のダイナミズム、アジェンダ 2063 の大きなプログラムとプロジェクト、大幅に改善された統治システム、そして韓国の急速かつ持続的な技術進歩により、我々はこれを達成するために必要な資産をすべて有している。

(9) アフリカ諸国は、グッド・ガバナンスの基礎を築き、投資を促進する法整備を発展するために多大な努力を払っており、今も続けている。この場を借りて、韓国政府と民間投資家に、この豊かな大陸の可能性をさらに追求し、産業と技術を現地化する我々の真剣な試みを支援するよう呼びかけたい。前回の経済サミットで約束された 60 億ドルの韓国からの投資は、今回のサミットで約束される投資と同様に、主に持続可能なインフラ、テクノロジー、農業、健康、デジタル税関交流といった戦略的優先分野の開発に向けられることとなる。また、アフリカ大陸の人口の約 60% を占める若者のための教育や職業訓練プログラムを支援することで、若者もその大部分の恩恵を受けるべきである。今日アフリカに必要なのは、2063 アジェンダで構想されている大きな変革の達成を支援する効果的なパートナーシップである。

(10) 我々の協力によって想定される共同成長の持続可能性は、アフリカ大陸が最も寄与することができていない気候変動の悪影響を最小限に抑えることが成功するかどうかにかかっているため、我々は環境に関する協力を強化する必要がある。我々はまた、アフリカにおける包括的な産業再興に向けた取組みに加え、韓国のライスベルト構想が提供する有望な機会を活用することにより、食料安全保障に焦点を当てなければならない。

(11) 国際経済、安全保障、政治情勢が複数の危機や戦争によってますます緊迫化するにつれ、大陸内及び大陸間の開発計画の実施は、多くの障害に直面している。今日、我々が目のあたりにしているガザやパレスチナにおける組織的なジェノサイドは、必要な財源を動員する可能性を制限することによって、世界の平和を脅かし、国際開発の計画を遅らせる。ロシアとウクライナの戦争が経済と安全保障に深刻な影響を及ぼすのであれば、なおさらである。

(12) 現在の世界秩序には抜本的な改革が必要であり、そのためには、安全保障理事会の改革、世界経済システムの見直し、アフリカ諸国に重くのしかかり国民に基本的なサービスを提供する能力を制限し、安全保障と安定に直接的な影響を及ぼす債務問題の再検討を視野に入れ、我々の共通の立場を調整する必要がある。

(13) 我々は、正当な立場を擁護するために、韓国の支援を期待しつつ、これらの問題に関して国際場裡での協調を強化することを楽しみにしている。今

回のサミットが実り多いものとなることを期待し、相互依存と共有された持続可能な成長に基づく未来を共に築くことができるよう、効果的なパートナーシップを確立することができるかと確信している。

3. ガズワニ大統領による閉会式でのスピーチ（概要）

（１）韓国・アフリカサミットの結果は、アフリカと韓国が共に目指す戦略的パートナーシップの深さを反映している。このパートナーシップは、アフリカと韓国の経済の活力から生まれる多くの機会を最適化するための基礎となるものであり、連帯、共通の利益と相互尊重に基づく協力である。

（２）個人として、モーリタニア代表として、アフリカ首脳代表として、尹錫悦韓国大統領、そして大統領を通じて韓国政府及び国民に対し、温かい歓迎と歓待、そしてサミットの完璧な開催に対する心からの謝意を表す。

（３）サミットの最終コミュニケは、産業化、農業、インフラ、デジタル経済、エネルギー、気候変動といった重要な分野における両国のパートナーシップを明確に反映している。

（４）アフリカ大陸が国際的な意思決定に影響を与える能力を強化するため、国際機関がアフリカ大陸により対応できるよう、協力を調整し、国際機関のガバナンスを改革するという共通の意思がサミットに反映された。

（５）サミットの非常に前向きな結果が、今年初めに始動したアジェンダ 2063 第二次 10 か年計画によって定義された大陸開発ビジョンの実施に大きな弾みをつけることは間違いない。

（６）今回のサミットの結果に挙げられている投資は、大陸の人々の共通の幸福を実現し、アフリカと韓国の協力体制を強化するために、経済統合のメカニズムとして大陸自由貿易圏を活性化させることにより、大陸統合のペースを加速させるだろう。

4. ガズワニ大統領によるビジネスサミットでのスピーチ（概要）

（１）アフリカ諸国と韓国は、ハイテク、農業、インフラ、産業変革などの主要分野において莫大な潜在力と機会を有している。民間企業が直面している障害を取り除き、投資を保護し、質の高い雇用を創出し、人々の生活条件を改善することのできる持続可能な成長を確保するための現実的かつ効果的なアプローチを求めるとともに、現在、貿易総額の 2% を超えるに至っていない両地域間の貿易を促進すること呼びかける。

（２）アフリカには 14 億人の消費者市場があり、アジェンダ 2063 に沿って、その優位性を経済、社会、技術開発の真の機会に変えていくことを決意する。

(3) 世界が直面している環境、経済、政治及び安全保障上の主要な課題は、アフリカと韓国のパートナーシップを、相互尊重、連帯、より良い未来に向けた共有されたビジョンに基づく国際協力のモデルとするため、持続可能で包括的な解決策を見出すために協力することが必要である。

5. 各種バイ会談

(1) アザリ・コモロ大統領

ア 4日夜、ガズワニ大統領は、韓国・アフリカサミットのマージンで、アザリ・コモロ大統領と会談した。

イ 会談では、両国間の協力関係を発展・強化させる手段、A U加盟国間の協力レベルの向上、共通の関心事である多くの地域・国際問題について話し合った。

ウ 会談には、ンジャイ大統領官房担当相、メルズーグ外相、エル・ハッジ大使が同席した。

(2) ルーパン・モーリシャス大統領

ア 4日夜、ガズワニ大統領は、韓国・アフリカサミットのマージンで、ルーパン・モーリシャス大統領と会談した。

イ 会談では、両国間の協力関係を発展・強化させる手段、A U加盟国間の協力レベルの向上、共通の関心事である多くの地域・国際問題について話し合った。

ウ 会談には、ンジャイ大統領官房担当相、メルズーグ外相、エル・ハッジ大使が同席した。

(3) アデシナ・アフリカ開発銀行 (AfDB) 総裁

ア 4日夜、ガズワニ大統領は、韓国・アフリカサミットのマージンで、アデシナAfDB総裁と会談した。

イ 会談では、モーリタニアとアフリカの国際金融機関との二国間協力関係の強化・発展について話し合われた。

ウ 会談には、ンジャイ大統領官房担当相、メルズーグ外相、エル・ハッジ大使が同席した。

(4) ハシャニ・チュニジア首相

ア 4日夜、ガズワニ大統領は、韓国・アフリカサミットのマージンで、ハシャニ・チュニジア首相と会談した。

イ 会談では、両国間の協力関係を発展・強化させる手段、A U加盟国間の協力レベルの向上、共通の関心事である多くの地域・国際問題について話し合った。

ウ 会談には、ンジャイ大統領官房担当相、メルズーグ外相、エル・ハッジ大

使が同席した。

(5) 尹錫悦韓国大統領との会談及びワーキングランチ

ア 5日、ガズワニ大統領は、ソウルの大統領府にて、尹錫悦韓国大統領と会談した。

イ 会談の中で、両首脳は、友好国である両国の二国間協力関係を強化・発展させる方法、A U加盟国と韓国の協力レベルの向上、共通の関心事項である多くの地域・国際的問題について話し合った。

ウ 会談には、ンジャイ大統領官房担当相、メルズーグ外相、エル・ハッジ大使が同席した。

エ 尹錫悦韓国大統領は、友人であるモーリタニア大統領（A U議長）に敬意を表し、ワーキングランチを主催し、両国の外務大臣による協力覚書への署名を行った。

オ ガズワニ大統領は、韓国大統領府において、V I Pの芳名録に記帳をした。

(6) ファキA U C委員長

ア 5日、ガズワニ大統領は、韓国・アフリカサミットのマージンで、ファキA U C委員長と会談した。

イ 会談では、アフリカ大陸の利益を守り、A U加盟国及び国民の発展を促進するため、A U Cの実績評価・フォローアップ、A U議長国であるモーリタニアの指針及び勧告の実施に焦点が当てられた。

●モーリタニア・パレスチナ関係（パレスチナ大統領特使兼パレスチナ大統領府報道官の当地来訪）

（6月11日付、当地政府系メディアA M I）

1 11日、ガズワニ大統領・A U議長は、アッバース・パレスチナ大統領からの文書メッセージを受け取った。

2 この発表は、11日にヌアクショットの大統領宮で行われた、ルデイナ（Dr Nabil Abou Roudeina）パレスチナ大統領特使兼パレスチナ大統領府報道官の謁見後に行われた。

3 同パレスチナ政府高官は、A M Iに対する声明の中で、アッバース大統領からガズワニ大統領に、パレスチナの大義に対するモーリタニアの絶え間ない支援への評価と感謝のメッセージを伝えたと述べた。

4 また、パレスチナの現状、イスラエルがパレスチナ人民に対して行ってい

る不当な殲滅戦争及びパレスチナの大義に終止符を打とうとするイスラエルの絶え間ない試みについてもガズワニ大統領に伝えたと言った。

5 さらに、パレスチナ人は、ヨルダン川西岸、ガザ及び東エルサレムにおいて、彼らの神聖な国家プロジェクトに終止符を打つことを目的とした残忍な戦争に直面していると述べた。

6 同特使は国際社会に対し、この侵略に終止符を打ち、支援が入ってくことを加速させ、学校、病院、人道センターを含む建物やインフラの70%以上が破壊されたガザを再建するよう呼びかけた。

7 同特使は、パレスチナ人は、パレスチナの大義を常に支持してきたモーリタニアの人々に感謝し、評価していると述べ、パレスチナ国とモーリタニアは、パレスチナ人民とアラブ民族の利益のために、パレスチナ国家の樹立とパレスチナ国民の権利 (droits nationaux palestiniens) の保全という明確なビジョンを持っていると強調した。

8 会談は、ジャイ大統領官房担当大臣、ハドラミ大統領府顧問及びエッサード駐モーリタニア・パレスチナ大使が同席した。

●BRICS外相会合：モーリタニア商業相の参加

(6月13日、当地政府系メディアAMI)

1. 火曜日(11日)、バンナーヒ商業・産業・伝統産業・観光相は、ロシアのニジニ・ノヴゴロドで開催されたBRICS外相会合に参加した。

2. 大臣は、6月10日及び11日に開催された同会合で演説を行い、「衡平な世界開発と安全保障のための多国間主義の強化」をテーマに開催される同会合の重要性を強調した。このテーマは、すべての国が直面する世界的な課題及び国際協力を強化し衡平で持続可能な開発を達成する必要性に照らして、非常に重要な意味を持つ。

3. この点に関して、BRICS諸国との協力は、国際システムのバランスをとり、正義及び開発を促進するというモーリタニアのコミットメントに由来するものであり、新たな国々が国際舞台に加わるにつれ、この経済圏の力が日増しに強まっていることを認識していると付け加えた。

4. 大臣は、加盟国が増え続けていることから経済的に大きな力を持つこのブロックが、パレスチナ人の悲劇に対する解決策の模索に貢献し、この問題を解決するために必要な条件を提供し、国際的な正当性のある関連決議に従って、東エルサレムを首都とする1967年6月4日の国境線上にパレスチナ人が独立国家を得ることを確保するよう求められていると強調した。

5. 会合には、バンナーヒ大臣、外務省のレフギ (Hasni Lefghih) 企画官 (大使)、ハダナ (Ahmed Rouvai Haddana) 在露モーリタニア大使館の臨時代理大使が出席した。

● G7サミット参加及びバイ会談

(6月14日付、当地政府系メディアAMI)

1 (1) ガズワニ大統領・AU議長のイタリア訪問は、G7サミットに出席した首脳たちから広く歓迎された。

(2) 参加者たちは、モーリタニアと主要先進国との協力分野や、数か月前から同大統領が議長を務めているAUの加盟国とG7の関係の発展について話し合うため、同大統領との会談の実施を熱望した。

(3) ガズワニ大統領とG7サミットに出席する首脳たちとの記念写真は、ガズワニ大統領への関心と温かな歓迎を物語っている。

2 (1) 14日、ガズワニ大統領・AU議長は、伊でのG7サミットのマージンでゲオルギエバIMF専務理事と会談した。

(2) 会談では、モーリタニアとIMFとの協力分野、IMFグループのビジョン、その将来の計画及びアフリカ諸国へのコミットメントについて話し合われた。

(3) 会談には、ジャイ大統領官房担当大臣、サーレハ経済・持続可能な開発大臣及びダヒ駐伊モーリタニア大使が同席した。

3 (1) 14日、ガズワニ大統領・AU議長は、伊でエルドアン・トルコ大統領と会談した。

(2) 会談の中で、両大統領は、兄弟国である両国の卓越した二国間関係の諸側面、その強化や様々な分野におけるAU諸国との協力・パートナーシップを発展させる方法について話し合った。

(3) 会談には、ジャイ大統領官房担当大臣、サーレハ経済・持続可能な開発大臣及びダヒ駐伊モーリタニア大使が同席した。

4 (1) 14日、ガズワニ大統領・AU議長は、伊でのG7サミットのマージンで、ミシェル欧州理事会議長と会談した。

(2) 会談では、モーリタニアとEUとの間に存在する特権的な協力関係と、それを発展させ、より広い分野へと押し上げるための手段、また、共通の関心事である国際的・地域的な問題や、AU諸国とのパートナーシップ発展の見通しについて話し合われた。

(3) 会談には、ジャイ大統領官房担当大臣、サーレハ経済・持続可能な開発担当大臣及びダヒ駐伊モーリタニア大使が同席した。

【軍事】

●モーリタニア軍及び国家憲兵隊による演習の実施

(6月10日付当地独立系メディアCRIDEM及び政府系メディアAMI)

1 (1) 軍参謀本部は、11日から2日間にわたり、大砲やロケットランチャーなどの重火器を使用した軍事演習を行うことを発表した。

(2) 軍参謀本部のフェイスブックによると、演習は首都ヌアクショットの北40km、ヌアクショット・アクジュージト道路からすぐのトゥエイラで行われる。

(3) プレスリリースによると、これらの軍事演習は、国軍が実施する定期的な訓練の一環である。

(4) 参謀本部によれば、市民は最大限の注意を払うよう求められており、特にこの地域に出入りしている人々やヌアクショット・アクジュージト道路を利用している人々には注意が必要である。

(5) 9日には、軍の最高司令官でもあるガズワニ大統領が、陸・空・海の各軍の態勢を更新するプログラムの一環として、最近入手した軍備を視察した。

2 (1) 10日、シディ国防相は、レミン内務・地方分権相及びアイシャ国家憲兵隊参謀長と共に、首都の南部で「ezbar 2024」として開催された国家憲兵隊の年次軍事・治安演習の正式な開始を監督した。

(2) ヌアクショット、ヌアディブ、アレグ・カエディ間の地域及びアイウン及びクベニの町で同時に開催されたこれらの演習には、20の中隊に分かれた1500人の部隊が参加し、200台の車両、装甲車、兵站トラック及び人員と装備を完全に装備したオフロード車両が使用された。

(3) 今回の演習は、これまでと同様、国家憲兵隊本部が常に関心を寄せている、憲兵隊の業務に関連するあらゆる分野における教育と訓練の継続により最新の情勢に対応し、与えられた任務を最大限に遂行できるようにするためのものである。

(4) これらの演習は、特に、国家憲兵隊に割り当てられた軍事・治安任務の遂行に関する指揮官と隊員の継続的な訓練と教育を通じて、また、様々な戦闘状況や、秩序の維持や国家の影響力と主権の拡大に必要な状況への絶え間ない適応を通じて、現実をシミュレートし、国家憲兵隊の各編隊が常に秩序を維持し、領土一体性を確保することを目的としている。

(5) また演習は、部隊の即応性をテストし、隊員、車両、全国で国家憲兵隊が使用するすべてのツールが常に万全の態勢で備えられていることを確認することも目的としている。

(6) 演習は、閣僚代表団と国家憲兵隊参謀長の前での参加部隊のパレードから始まり、次にアイシャ国家憲兵隊参謀長がこの軍事・治安演習の背景について説明した。

(7) 「ezbar 2024」演習の一環として、秩序の維持、国家権力の尊重、接近戦、射撃などに重点を置いた一連の実戦演習が実施され、隊員たちは、彼らに託されたすべての軍事・治安任務を遂行する準備態勢と能力を示した。

(8) 国防大臣と同行した代表団は、演習の責任者から、演習の内容や使用武器について詳しい説明を受けた。

(9) 演習の最後を飾ったのは、首都を一周した後、ヌアクショット3州を横切るパレードの出発地点である首都南部のEzbarに戻るまでの移動パレードであった。

(10) 国家公安庁(DGSN)長官、国家警備隊参謀長、軍・治安部隊総監部総監、国防省次官、国家憲兵隊副参謀長、市民安全・危機管理総代表、国家憲兵隊本部の事務所や部局の将校や司令官らが出席する中、これらの演習が正式に開始された。

●モーリタニア軍による中国企業の防空システム取得

(6月14日付、当地独立系メディアCRIDEM)

1 モーリタニア軍は最近、中国で製造され、TY-90ミサイルを装備したYitian-L防空システムを取得し、防衛能力を強化した。

2 この取得は、空の脅威に直面するモーリタニア軍の近代化における重要な一歩である。Yitian-L防空システムは、Donfeng 4x4戦術車両をベースとし、航空機、ヘリコプター、ドローン及び巡航ミサイルを含む様々な空からの脅威を迎撃し、無力化するように設計されている。

3 同車両には、発射準備の整ったTY-90ミサイルランチャーが4基搭載されており、高速の空中目標に対する強固な防御を提供する。

4 中国精密機械輸出入総公司（CPMIEC）が開発したTY-90ミサイルは、そのコンパクトなサイズと特殊な照準能力で知られている。長さ1.86 m、重さ20 kgのこのミサイルは、固体燃料エンジンを搭載し、最大6 kmの有効射程を誇る。

5 Yitian-Lは、精度及び反応時間を向上させる高度な発射管制システムを備えている。このシステムには、コンピューターによる照準機能が含まれており、直接射撃と間接射撃の両方をサポートする。さらに、敵味方識別（IFF）技術も組み込まれており、敵の標的を正確に識別しながら、味方への誤射を回避することができる。

6 Yitian-Lのレーダーは通常Xバンドで作動し、複数の目標を同時に探知、追跡及び識別することができる。このリアルタイム探知能力は、ミサイルを迅速かつ正確に発射するために極めて重要である。

7 Yitian-Lは、乗員を保護し、敵対的な環境での運用の完全性を維持するように設計されている。装甲、核・化学・生物（NBC）の脅威に対する保護システム、スモークグレネードランチャー及び自動消火システムを備えている。

8 この取得はモーリタニアの軍事力を強化し、機動作戦や重要資産の定点防衛に適した堅牢な防空ソリューションを提供する。この取得は、進化する地域の安全保障上の課題に直面し、防衛インフラの近代化に取り組むモーリタニアのコミットメントを強調するものである。

9 モーリタニア軍は、陸海空軍及び国家憲兵隊で構成され、国内安全保障及び地域の脅威との戦いに重点を置いている。サヘル地域の過激派グループや組織犯罪がもたらす複雑な課題に対処する上で、防空能力と迅速な対応能力の向上が不可欠である。

10 Yitian-L システムの取得は、モーリタニアの防空にとって大きな切り札であり、多くの安全保障上の脅威に悩まされるこの地域における主権及び安定を守る能力を強化するものである。

【文化】

● 2025年度日本政府（文部科学省）国費外国人留学生、筆記試験・面接試験

実施

(6月10日及び24日)

2025年度日本政府(文部科学省)国費外国人留学生の書類選考合格者に対して、6月10日に筆記試験を実施した。また6月24日に、筆記試験合格者に対する面接試験を実施した。すべての選考過程に合格し、受け入れ大学が決定した者は国費外国人留学生として採用され2025年の4月もしくは10月に渡日が予定されている。